

目 次

- 平成 23 年度 卒業式 ..... 3
- 学長告辞 学 長 川添 堯彬 ..... 3
- 理事長式辞 理事長 川添 堯彬 ..... 4
- 祝 辞 同窓会会長 三谷 卓 ..... 5
- 学位・博士（歯学）授与報告 ..... 9
- 平成 24 年度 一般入試合格発表 ..... 10
- 平成 23 年度 専門学校卒業式 ..... 11
- 平成 24 年 新年互礼会 ..... 11
- 定年退職 ..... 22
- 定年を迎えて 池田 良則 ..... 22
- 定年退職にあたり 大上 登 ..... 22
- 定年退職の挨拶 田中 照代 ..... 23

- 平成 24 年度 事業計画 ..... 24
- 第 105 回 歯科医師国家試験結果 ..... 26
- 第 19 回 公開講座「枚方講座」開催 ..... 26
- 平成 23 年度 解剖体遺骨返還式 ..... 26
- 第 7 回 人権標語入賞者表彰式 ..... 27
- 平成 23 年度 人権講演会開催 ..... 27
- 神戸新聞に本学教員が連載 ..... 28
- 覚道附属病院長が読売新聞で解説 ..... 29
- 寄 贈 ..... 29
- 創立 100 周年記念事業募金結果報告 ..... 29
- 人 事 ..... 46
- あとがき ..... 46



平成 23 年度卒業式（平成 24 年 3 月 9 日）

平成23年度 卒業式

平成24年3月9日（金）午前10時から楠葉学舎大講堂において、平成23年度大阪歯科大学卒業式ならびに大学院学位認証式が開催された。雨の卒業式となったが、ご父兄や関係者も多数出席し、川添堯彬理事長・学長から第60回大学卒業生100名一人ひとりに卒業証書・学位記が授与され、第48回大学院修了者27名にはそれぞれの指導教授から博士（歯学）の学位記が授与された。

卒業式に先立ち、昨年3月11日の東北大震災で亡くなられた方々に対し1分間の黙祷を捧げた。諏訪文彦副学長の開式の辞、国歌斉唱、卒業証書・学位記の授与のあと、川添堯彬理事長・学長が学長として告辞、また理事長として式辞を述べた。来賓祝辞では三谷 卓同窓会会長が卒業のお祝いを述べた。最後に、卒業生を代表し岸川 稔さんから記念品が寄贈された。



学長告辞

学 長 川添 堯彬

3月1日に始まった東大寺二月堂のお水取り行事は、3月5日の啓蟄を過ぎてなお続いており、この15日にいよいよ最終のクライマックスを迎えます。野山の梅林も今が満開で、春の息吹がそこかしこに感じられるこ



のごろでございます。

卒業といいますと、日本ではこれまでの修業、あるいは学習を終えて、実社会へ巣立つ意味合いが強いのですが、アメリカの大学では卒業式のことを「コメンメント・エクササイズ」という言葉を使うようで、実社会研修の始まりという意味で、卒業式はスタートの日のことでもあります。

本日、このよき日に第60回大阪歯科大学卒業式を迎えられます100名の新学士諸君、ならびに第48回大学院学位認証式を迎えられます27名の新博士の皆さん、本日はまことにおめでとうでございます。同時に、本席にご臨席いただきました保護者、ご家族の皆様におかれましても、ご子弟の晴れ姿に万感の思いを抱いておられることと拝察いたします。

このたび、卒業という重い資格を獲得された新学士の皆さんに、まず申したいと思います。

あなたたちは将来、いろいろな方面に進まれて、歯科医師として活躍されることと思います。その道がどのような道であっても、目標がしっかりと確かであれば、すべてすばらしく、人々に貢献されることに間違いがないと確信いたします。目標あるいは志について、本学卒業生は皆、崇高で誇らしい建学精神に浴しています。

今から100年前、明治44年12月12日に、本学は藤原市太郎先生によって創立されました。そのとき、「学校経営は営利に非ず、博愛公益に努力するものなること」という言葉を後進に残されました。この言葉は、本学の精神的支柱として受け継がれてきております。これから皆さんは、開業に進まれる方や役所の勤務、あるいは研究者、あるいは本学の教員、あるいは国際活動家など、さまざまな分野の選択肢があると思いますが、我々の尊い最終目標あるいは志は、「人類への博愛と人々への公益奉仕」であるということを胸に銘記していただきたいのであります。博愛は慈悲の心にも通じ、思いやりの心でもございます。

次に、大学院を修了された新博士の皆さんへ申したいと思います。27名の皆さんは、歯学部を卒業後、さらに勉学意欲、また研究意欲に燃えて、ここまでよくぞ辛抱して耐えて、見事に博士の学位を獲得されたのであります。晴れて今日からは博士の先生と呼ばせていただきます。ここまでの苦労や努力が、今後の皆さんのそれぞれの人生に存分に生かしていけるものと確信い

たします。それらの思いを、そして決意を、各自の胸に刻んでいただくために、昨年から本学にしかない独自のデザインのアカデミックガウンを着用していただくことにしました。

今日のこの思いを糧に、各分野の専門家として、存分にこれから活躍されますことを心から祈念いたします。そして、さらに期待したいことは、皆さん方は恵まれて、また幾多のご努力を経てここまで進んでこられた、尊いエリート人材であります。これからは、どの分野、どの国、どの地域でも構いません。あなたたちが本学の大学院を出たことを、常に胸に銘記しながら活動していただきたいと思います。そして、究極の目標である「博愛と公益」のゴールへ、少しずつでも近づく努力をしていただきたいと願います。

以上、新博士と新歯学士の皆さんへの学長告辞といたします。



**理事長式辞**

**理事長 川添 堯彬**



今日というよき日に第60回の大阪歯科大卒業式を迎えられます100名の歯学士の皆さん、ならびに第48回の大学院学位認証式を迎えられます27名の新博士の皆さん、このたびはまことにおめでとうございます。



同時に、皆さん方の達成を、そして今日の日を、どんなにか心待ちにされておられましたご家族、保護者の皆様におかれましても、そのお喜びは如何ほどかと拝察する次第でございます。

さて、まず100名の歯学士の皆さんに申し上げます。

皆さんは間もなく、国家試験に見事に合格されて歯科医師になられるわけですが、これからさらに定められた1年間の臨床研修を積みなければ一人前になれません。私はここで理事長として、卒業生の皆さんに申し上げたいと存じます。

皆さん方は、こぞって100年の伝統を刻んだ尊い大

学の卒業生であるということを、めいめいの胆に刻んでほしいのであります。100年の長きにわたって社会に奉仕し、貢献してきたんだという先輩たちの高い誇りを思っしてほしいわけであります。そうすればおのずと一同の胸中に、未来へ向けた新たな決意たる誓いが生まれるものと確信いたします。

昨年、2011年11月11日に「誇りと誓い—藁藁たる大樹へ—」というフラッグのもとに、盛大な100周年記念式典が挙行され、国内ならびに国外の同胞、関係者の耳目・関心を集め得たという、この歴史的事実をあなたたちは経験したわけであります。この100年に一度しかない非常に貴重な記念のときに、君たちが卒業し、私たち教職員がその場に居合わせたという僥幸の運命を思わずにはられません。皆さん方にも、今日というスタートの日に、未来へ向けた新たな誓いを胸に刻んでいただき、これからの各人の進路に向かって進んでいただきたいと思います。

一方、大学院博士課程を修了された皆さん方は、おのおのが専攻講座指導教授のもとで研鑽に努め、専門分野での知識をより深められたことと思います。しかし、単に学位を取得したということに慢心、あるいは満足せず、得られた知識や専門分野での研究成果を、これからの歯科医療分野に反映させていただきたく切望してやまないであります。

今年度の大学院修了者から、さらに大学や病院に残られる場合には、それぞれが各部署で重要な職責を担うようになってくれることを心から願って、理事長の式辞といたします。



祝 辞

同窓会会長 三谷 卓

ただ今、諸君は学長から卒業証書を授与され目出度く歯学士と成られました。諸君は春秋に富む青年期の貴重な6年もの歳月を費やして歯科医としての天職を得るために、今日まで研鑽を積んでこられました。今日、見事にその成果が花開き、自らによる人生の出発点に立ち上がった事になります。



同じ体験をしてきた我々全国の先輩同窓会員は、皆さんのこの慶祝に満腔の拍手を送り、衷心よりお祝い致します。誠におめでとうございます。

ご両親、ご父兄に於かれましては、今日までのご支援、今更ながら感慨深いものがありそうですが、その労苦に、我々も深甚なる敬意を表すところです。

昨年は、我が国にあっては有史以来の大災害や予期せぬ出来事に見舞われた年でありましただけに、今日のこの日を無事迎えられましたことに改めて感謝する次第であります。

さて、歯科医学を目指す医療の実践には、国の定める大きな関門を突破して初めて可能と成りますが、間もなく皆さん全員がその栄冠を勝ち取ってくれることを期待しています。しかし残念ながら、毎年厳しい結果を体験してきたことも現実であります。万が一、諸君にそのような場面があっても、決して負けることなく、決意をさらに強く発揮され初期の目的を達成してください。資格修得の為には状況を非難したり躊躇するのではなく、敢然と立ち向かってください。これからの人生で出会う様々な事象と体験が、諸君を強く逞しくして呉れることになります。つまり皆さんは、如何なる場面でも前進する意思を持ち続けねばなりません。諸君には暗がりはありません。そこは常に挑戦の舞台であります。

今日の医療は、将に日進月歩の発展を遂げていますが、救急、救命の医療もさることながら、健康生活の為の医療の在り方こそ志向されるべき課題であります。さすれば、歯科医療こそ健康福祉の医療として、身体

機能の保持向上を目指すものであり、新しい発想・認識が求められます。常に目指す山にはさらなる山が続きます。諸君には、生涯にわたっての自己研鑽、社会人としての成長へのたゆまぬ意志力を持ってください。

大学は昨年、創立100周年を祝いました。同窓会としても、記念の行事の一つとして学生の諸君に絵画の寄贈をしました。本学玄関ホールに掲げてありますが、「緑の青春」像は歯科医としての道への躍動でありませぬ。楠葉を巢立たれる今日、改めて味わってください。緑は北原白秋の校歌にも繋がりますが、この校歌もまた建学の精神に劣らない言葉であります、大歯に学んだ者への生涯のメッセージでもあります。

今、我々は100年を超えて新しい世代に向けて一歩踏み出さねばなりません。それは、大学としての誇れる文化を作る為のステージであります。

その為にも、同窓会員が常に大学と共にあることを忘れないでください。諸君は、我が大学のかげがえのない組織体であります。諸君は、晴れの大歯60回生と呼ばれます。互の友情と連帯を、手を取り合って育ててください。

大学院博士（歯学）の認証を受けられた皆さん、素晴らしい研究成果を得られ、誠におめでとうございませぬ。それは或るときは厳しい試練であったでしょうが、同時に自らの成長を得るものでありました。近年、ITや分子生物学の進歩を軸として歯科医学も技術のデジタル化、組織再生分野の進化が期待されていますが、皆さんの研究が本学の目指す大樹に貢献することを願っています。

最後に成りましたが、皆さんがこれから大きく発展、活躍されることを、そして幸運と健康に支えられますことを心から願って、同窓会よりの祝辞といたします。

(平成 24 年 3 月 9 日)









## 学位・博士（歯学）授与報告

木村 大輔 甲第665号 (平成24年3月9日)

Efficacy of bone regeneration with Poly(Pro-Hyp-Gly) synthetic polypeptide sponge as scaffold using bone marrow derived mesenchymal stem cells (骨髄由来間葉系幹細胞を用いて合成ポリペプチド Poly(Pro-Hyp-Gly) スポンジを足場とした骨再生の有効性)

坂井 加奈 甲第666号 (平成24年3月9日)

Effects on bone regeneration when collagen model polypeptides are combined with various sizes of alpha-tricalcium phosphate particles (コラーゲンモデルポリペプチドと異なるサイズの $\alpha$ -TCPの混合による骨再生能の評価)

白尾浩太郎 甲第667号 (平成24年3月9日)

A study of stress on the oral and maxillofacial complex in judo (柔道競技における口腔顎顔面領域の応力に関する研究)

大西 杏奈 甲第668号 (平成24年3月9日)

Direct evidence for inhibition of mitochondrial permeability transition pore opening by sevoflurane preconditioning in cardiomyocytes : Comparison with cyclosporine A (セボフルランプレコンディショニングによる心筋細胞のミトコンドリア膜遷移透過性ポア開口抑制 : cyclosporine A との比較)

西田 侑平 甲第669号 (平成24年3月9日)

Preventive effect of mouthwash for artificial incipient carious lesions (洗口剤の表層下脱灰の抑制効果に関する研究)

園田 弓 甲第670号 (平成24年3月9日)

Changes in rat salivary stress markers induced by orthodontic force (矯正力に対するラット顎下腺唾液中のストレスマーカーの変化)

角倉紗恵子 甲第671号 (平成24年3月9日)

Effect of IL-17 on osteoclast differentiation of RAW264 cells (RAW264 細胞の破骨細胞分化における IL-17 の影響)

濱田 真智 甲第672号 (平成24年3月9日)

Effects of temporomandibular joint sensory

deprivation on cerebral activity during clenching (噛みしめ時の大脳皮質賦活領域に及ぼす顎関節感覚遮断の影響に関する fMRI 解析)

宇垣 吉秀 甲第673号 (平成24年3月9日)

Analysis of fluorescence visualization in rat tongue carcinogenesis by 4-nitroquinoline 1-oxide (4-nitroquinoline 1-oxide 誘発ラット舌癌発生過程における蛍光光学機器解析)

林 輝嘉 甲第674号 (平成24年3月9日)

Comparative expression profiles of keratins and apoptosis regulating proteins in keratocystic odontogenic tumor, orthokeratinized odontogenic cyst, and dentigerous cyst (角化嚢胞性歯原性腫瘍、正角化性歯原性嚢胞および含歯性嚢胞におけるケラチンとアポトーシス調整蛋白の発現性の比較)

古川麻希子 甲第675号 (平成24年3月9日)

Influence of different setting positions of maxillary major connectors on salivary stress markers (上顎大連結子の設計位置が唾液中ストレスマーカーへ与える変化)

保尾 謙三 甲第676号 (平成24年3月9日)

Study on the marginal seal of composite restorations to dental hard tissues irradiated by Er:YAG laser (Er:YAG レーザー照射歯質に対するコンポジットレジン修復の辺縁封鎖性に関する研究)

藤平 智広 甲第677号 (平成24年3月9日)

Analysis of genes involved in exopolysaccharide production of *Rothia mucilaginosa* clinically isolated from a persistent apical periodontitis lesion (難治性根尖性歯周炎から分離したバイオフィルム形成 *Rothia mucilaginosa* DY-18 株の菌体外多糖産生関連遺伝子の同定)

柿木 栄幸 甲第678号 (平成24年3月9日)

Osteogenesis by bone marrow cells in a novel hybrid alginate/calcium phosphate sponge scaffold (新規ハイブリッドアルギン酸ナトリウム/リン酸カルシウムスポンジ状担体における骨髄細胞による骨形成)

安井津津希 甲第679号 (平成24年3月9日)

Biological effects of Emdogain®-derived oligopeptides on rat bone marrow cells *in vitro* (ラット骨髄細胞に対するエムドゲイン®由来合成ペプ

チドの生物学的影響)

氏井 庸介 甲第680号 (平成24年3月9日)

Effect of p38 MAP kinase on the production of MMP-1 in human gingival fibroblast-like cells (ヒト歯肉由来線維芽細胞の MMP-1 産生に及ぼす p38 MAP kinase の影響)

小正 聡 甲第681号 (平成24年3月9日)

Bioactivity of nanostructure on titanium surface modified by chemical processing at room temperature (室温化学合成法におけるナノ構造制御を行ったチタン金属の生体活性)

小木曾一貴 甲第682号 (平成24年3月9日)

Isolation of a biofilm-defective mutant of *Actinomyces* from a patient with gingivitis (歯肉炎患者より分離された *Actinomyces* におけるバイオフィーム欠損株の単離)

重松 伸寛 甲第683号 (平成24年3月9日)

Relationship between VEGF and AGEs on periodontal wound healing in model rats with type 2 diabetes mellitus (2型糖尿病モデルラットの歯周組織創傷治療における VEGF と AGEs の関係)

國場 幸恒 甲第684号 (平成24年3月9日)

Influence of decline of occlusal support on bilateral striatal dopamine release in rats (臼歯咬合支持喪失の程度がラット両側線条体ドパミン放出に及ぼす影響)

仲村 浩正 甲第685号 (平成24年3月9日)

Implants in mandibular incisor extraction sockets of diabetic aged rats (糖尿病高齢ラット下顎切歯抜歯窩へのインプラント埋入に関する研究)

辻本 香織 甲第686号 (平成24年3月9日)

Effect of body position on tongue movement during swallowing (体幹角度が嚥下時の舌運動に与える影響について)

向井 憲夫 甲第687号 (平成24年3月9日)

Occlusal contact and mechanosensitive threshold of patients with uncomfortable occlusion (咬合違和感患者の咬合接触と触・圧覚閾値)

下間 美沙 甲第688号 (平成24年3月9日)

An electromyographic study of the inferior head of the lateral pterygoid muscle during inter-

maxillary elastics (顎間ゴム装着時の外側翼突筋下頭の筋電図学的研究)

野口三智子 甲第689号 (平成24年3月9日)

Hard tissue formation induced by synthetic oligopeptide derived from an enamel matrix derivative (エナメル基質蛋白誘導体由来の合成ペプチドによる硬組織形成)

農端 健輔 甲第690号 (平成24年3月9日)

Sequential changes in microdamage resulting from insertion of temporary anchorage devices (Temporary anchorage device 植立時に生じる Micro damage の経時的変化)

大橋 晶子 甲第691号 (平成24年3月9日)

The approach to an attractive smile in dentistry; examination of changes in the distance around the mouth (笑顔への歯科からのアプローチ - 口唇周囲の変化からみた研究 - )

田中 真 乙第1572号 (平成24年3月21日)

The histological diversity of adenoid cystic carcinoma demonstrated by double immunohistochemistry for p16 and P63 gene products (p16 と p63 遺伝子タンパクの免疫二重染色による腺様嚢胞癌の組織多様性)

岡本 考司 乙第1573号 (平成24年3月21日)

High-dose-rate interstitial brachytherapy for tongue cancer; a radiological and biological study from the perspective of late complications (舌癌に対する高線量率組織内照射 - 晩発生有害事象の観点からの放射線生物学的研究 - )

平成24年度 一般入試合格発表

2月2日(木)午後3時、平成24年度一般入学試験前期の合格者の発表があり、88名が合格した。受験生や家族の方などが見守る中、合格者の受験番号が掲示され、携帯のカメラに収める光景が見られた。



### 平成23年度 専門学校卒業式

3月13日（火）、午前10時から平成23年度大阪歯科大学歯科技工士専門学校ならびに大阪歯科大学歯科衛生士専門学校の卒業式が、楠葉学舎講堂で



行われた。歯科衛生士学科第35期24名、歯科技工士学科第47期24名、歯科技工士専攻科第31期2名、合わせて50名に末瀬学校長から卒業証書が手渡された。

表彰式では、大阪府知事賞が歯科衛生士学科の江原杏子さん、歯科技工士学科の田端 聡さんに授与されたのを始め、様々な団体から多くの賞が授与された。

末瀬学校長は告辞において、歯科衛生士学科の卒業生には「患者さんやスタッフへの思いやりの心」、歯科技工士学科の卒業生には「よりグレードの高い技工物の製作」を心がけてもらいたいと述べた。大リーガーのイチローの「僕は天才ではない。ヒットを打てるかを説明できるからです」を引用し、成功は才能にほぼ笑むのではなく、地道な努力にあるとした。また、93歳の画家・堀 文子が「群れない、慣れない、頼らない」を信条に今なお創作活動において新境地を開いていることを紹介した。

川添理事長は式辞で、卒業式は社会へ出て行くスタートであると述べ、医療人としての評価（アセスメント）は、患者さんの評価、先輩の評価、自己評価と目線の違いにより様々であるが、自らの職業に誇りを持って務めることが大事であると述べた。



### 平成24年 新年互礼会

1月5日（木）、午前10時から平成24年新年互礼会が楠葉学舎講堂で開催され、教職員はじめ関係者多数の出席のもと、川添堯彬理事長・学長が年頭所感を述べた。昨年と同様にパワーポイントを用い、平成24年度の大学の事業方針などについて、約1時間熱弁をふるった。その後食堂に場所を移し、和やかに新年の交歓会が開催された。



新年互礼会 年頭所感

理事長・学長 川添 堯彬

お集まりの皆様、新年明けましておめでとうございます。何よりも、きょうの新年互礼会に、はせ参じてくださりましたこと、また、その方々に深く心に銘記いたしまして、ほんとうに心から厚く感謝申し上げます。私も毎年、このときを身の引き締まる思いで臨んでおります。理事長、学長として、謹んで本学からのごあいさつ、メッセージをただいまから申し上げます。

私は本学の存在及び姿をこのときから将来に向けて、蓊蓊たる大樹のごとく、豊かな希望あるものに実現、そして形成するべく、皆様とご一緒に奮戦努力していくことを改めてここに決意表明いたします。これまでの4年間の改革結果につきましては、この後のスライドでお示しいたしますが、新たなる改造計画はこれからがスタートであります。その第一歩としての今年の私たちの大学のスローガンは「さらなる飛躍への新たな改革」、そして、飛躍の年を目標としたいと存じます。本年も何とぞよろしく願ひいたします。

それでは、これよりはスライド、パワーポイントでもって若干の説明を加えさせていただきたいと思ひます。冒頭からは白いスライドが何枚か続きますけれども、今年は白、白色が「吉」だそうでございます。

平成24年は「壬辰（みずのえたつ）」

この「富岳図」は白い富士からスタートいたします。昨年23年の「辛卯（かのとう）」の年でございます。このときに、ここへ挙げましたのは、大地は風化を受ける、あるいは地の気が広がり、万物萌え立つということでございます。この大地は風化を受けるということを今、思ってみますと、3月11日の大震災だとかその後の近畿の大洪水、台風による大雨だとか、そういったことを想起してしまうわけでございますけれども、本学はこれから述べます幾つかの改革が進みまして、また、100周年記念事業としての新しい7つの記念事業、行事を達成いたしました。

今年はといいますと、平成24年、「壬辰（みずのえたつ）」でございます。うるう年でございます。「壬（みずのえ）」の字義は、「妊（はらむ）」とか「任（たえる）」、あるいは耐え忍ぶの「耐える」という字義であるとのことでございます。これを当てはめると、目

的及び居所を定めて、耐えて、そして、その結果、潜在能力を高めるということに「壬（みずのえ）」という意味が含まれるようでございます。また、「辰（たつ）」のこと、これはいろいろ竜のドラゴンともよくあわせますけれども、振るえ立つの「振るう」ということ、あるいは、竜は中国では邪気を祓う象徴とされております。したがって、我々の運氣になぞらえますと、万物は奮え、動き、光に向かうであろうという運氣が出ているようであります。

先ほど冒頭のごあいさつにも述べましたように、今年こそ飛躍に向けた年にしよう、新たな改革の年にしようということで、この漫画を出しております。また、右のコラムには、「ししんさん（歯神さん）」という、これは100周年での本学の学内で公募いたしまして、つくったものでございます。やはり、これも白を基調としていますので、出させていただいたのですけど。昨今のテレビ、ラジオでは、大阪、特に関西では神さんのことを「さん」で呼びならわすことが多いようでございます。「住吉さん」とか、そういうことで、「ししんさん（歯神さん）」と。歯の神さんでございますけれども、本学のODUのマークを立てております。

それで、ここにありますのは、白いドラゴン、白竜観音の祈りという中の一部、下半分でございますけれども、2012年にこれをちょうど当てはめてみました。これは5つの爪です。5つの爪が珍しいというか、縁起がいいということにされているようであります。



ここがどうして白いドラゴンかということ、ここにあるのですけど、この爪のところ、真ん中の球をぐつつかんでいるのは黄色でありますけど、黄色の運氣から白に移って、それで、さらにこの黒。この黒も縁起

がいいということで、ドラゴンは非常に躍動、躍進ということで、黄色も縁起がよければ白もよい、そして、黒さえもよいという、この3色ですね。白から派生した、白を介した3色がすべてこれからの飛躍、奮闘をあらわしていると言われます。

歯科大学の現況

それで、ここからは現実、我々、歯科界あるいは歯科大学を取り巻く環境でございますけれども、ここにグレーがかった非常に重々しい逆風、重圧が10個並べてあります。昨年もこのスライドは出ささせていただいたのですが、これは数年前からほとんど変わらずにまだ残っております。少し解決といいますか、そこをクリアして、乗り越えたかなというものも幾つかあるのですが、経済、景気、不況があります。学生減による経営難、これは大学の経営難ですが、政府の補助金減額がございます。補助金が、私立、国立を問わず、特に私立大学では非常に減ってきております。



最近、学費が高いとの声が非常に高まって、それにあわせて、学費減額競争が第2次か第3次ということで起こってきているということもあります。

また、職業としての歯科医師が過剰ゆえに、もうひとつ受験生の中では不人気であるというのも、昨年ぐらいからメディアで大分あおられました。おかげで少しブランド性が落ちたということでもあります。歯科医師が過剰、それから、受験者数の減少。青年人口、18歳人口と言ってもいいのですが、減少。これと景気とか、あるいは我々の大学のような学費の比較的高いところではこれが非常に大きいのしかかっております。

さらに、加えて、国試の合格率が非常に難関になってまいりまして、これは歯科医師過剰をにらんでの国からの締めつけともとれるのですが、非常に理不尽過ぎる面もあるのですが、それと闘わないといけないということですね。相変わらず政府の定員削減、28%減らすということで、あと8%ですね、まだ減らしていないところへはさらに要請を加えてきております。これらが、少しは歯科医師の人気とか、そういった職業としての魅力が回復してきたように見えるのですが、まだこの6つの重圧は依然として歯科大学を非常に厳しいものにしておるわけでございます。

大阪歯科大学力の課題



それで、何とかこれをはねのけないといけない。これが我々の大学人といいますか、大学に関係している者にとっての課題になるわけでありまして。この黄色とピンク色とに分けてあるのは、黄色の方は最初、これを唱え出した3年前あるいは4年前から、こういった学生に対する学力、教育力といいますか、そういったものをアップしないと、やがてはこういう国家試験が難関の時代に突入するぞということがわかっておりましたので、それを最初に挙げたんですけれども、これは目下、軌道に乗せて、それに乗って、鋭意、全力を挙げて取り組んでおるところであります。

そして、最後に残りそうなおもっと重いのが、このピンクで書いたものであります。最終的には、国試合格率、学士試験学力、これは卒業する学士試験の力、第3次学力とも言われるものであります。卒業前にやるものですね。卒業試験です。これを高めないと。この黄色がトータルで学士力と国試合格率にあらわれてくるということ、この問題意識の分析は一番最初から取り組んでいるのですが、一見、分析ができたんで

すが、その完全な効果が出るにはかなり時間がかかるので、引き続きこれには目が離せないという状態になっております。

そして、さらに学生数を、やがては8%、128名から13名減らさざるを得ないということは来年にも起こりそうな感じで、17の私立歯科大学がこの8%のさらなる減に何とか耐えているわけでございます。

そういう状態で、これが今後も続きそうですので、何とかそれにかわるものということで、大学院生の大学院力というか、大学院生の量的、質的アップを図ったらどうだろうか。そして、それはさらには研究力のアップにもつながるということで、一石二鳥ではなからうかと。あるいは、外国人の大学院生をとるとか。また後で詳しく申しますけれども、それもあります。あるいは、社会人大学院生をとろうということですね。大学院も単なる博士課程だけではなくて、修士課程だとか専門医コースだとか、そういったものもこれから必要になるのではないかという感じで、その備え、準備はしておかないといけない。

大学の財務改善力というのが私立大学ではかぎを握るということで、やはり、最終的にはですね。以前と違って、国からの補助金がどんどん減らされてくる。学生数も減らされると、授業料としての収入が落ちる。あとは病院だけが収入の頼りなのですが、そこから黒字を上げてほしいとまで言わないけれども、なるべく赤字を減らしてほしいというのが本音のところであります。少しでも部分的、独立採算的な考え方が今後必要なのではないかという気がいたす次第でございます。ですから、次に残された大きな問題が、この4つのピンク色が大きな課題になります。

### 建学の精神について

翻って、これからは大阪歯科大学の建学の精神ということで、100周年ではこれを盛んに叫んだのですけれども。

これは明治44年12月12日に残された創立者の藤原市太郎先生が「学校経営事業は営利に非ず、博愛公益のために努力するものなること」という、これは本学でさかのぼってみますと、最もどの時代にも誇れるフィロソフィーといえますか、コンセプトがここに、特に「博愛公益」の中に凝縮されている。その精神を建学の精神に持つ本学は、これは国内のみならず、あるい

は時代を問わず、世界に胸を張って、最も崇高な誇りを我々は抱いているということです。それを100年前にこの先生は叫んでいた。最も経営的に苦しい時代にこれを言っていた。最もお金にならんことを言っていたというところにみそがあると思って、我々は、この言葉、この精神を埋もれさせては我々の大学に誇れるものがなくなるのではないかという気がいたす次第であります。

「博愛公益」とは、もう一度、字引で引き直してみたのですけれども、結構難しい言葉なんです。ね。

手っ取り早く、広辞苑の第6版から引用した定義はこんなのです。人類全体の福祉増進のために、かつ広く世人を益するためにという、この辺は「博愛」ですね。全人類すべてに平等に相愛すべきものであるということ、どうも「公益」となると国内に限定されるようだけれども、「博愛」はやはり全人類すべてに対して努力する。歯科医療を通じて、あるいは歯科医学、そこで学んだ精神を他の職業について、NPOを立ち上げてでも、この精神は大阪歯科大学を卒業した人はみんな究極の——その各人の人生においてどれだけ達成できるかどうかわかりませんが、持つべきものということ、これは最も誇る、どこに行ってもこれはすばらしいと言っていただける建学の精神でございます。

### 「五つの力」と「三つの力」

平成20年と平成23年に我々は教育研究の重点目標を教学における「5つの力(りょく)の目標」、そして、それに追加した「3つの力(りょく)の追加目標」というものを立てました。

- 【五つの力の目標】
- ニ募集ブランド力の回復
- ニ学力の向上
- ニ教育力の向上
- ニ人間性涵養力への注力
- ニ教員人材育成力への注力
- 【三つの力の追加目標】
- ニ学生の国際交流力増強
- ニ大学院力の増強
- ニ研究力の向上

これを最初から8つにしないで、3つを追加した理由は、まず必要性の一番高い「5つの力(りょく)」,そして、さらに当然行き着くところである研究力,そこを後にしたという点です。これは重要なのが5つで、その次に重要なのが3つという意味ではありません。8つがすべて重要ですけれども、本学にとって少し衰えかけているものとか不足しているものに関して、まずそれをアップする必要がある、回復、向上させる必要があるということです。「5つの力(りょく)」に関しましては、平成20年からですから、それについて改革すべきところも大分増えてまいりましたので、間もなくそれに対する結果、効果があらわれてくると思います。

さらに、世の中がどんどん変わっていきますので、我々はそういった崇高な建学の精神を持っているんですけれども、入ってときから勉強、勉強、国家試験のため、国家試験のためとか言っても、どうもそれだけでは教育というのは、エンジン、馬力がかからないような学生、特に最近の学生の質といいますか、そういうものとしては、やっぱり……。それは卒業後の、あるいは卒業してからの自分たちの人生をいかに有意義なものにするかという観点に立ちますと、やはり、ああいった「博愛公益」というその後の大きな目標を学生に持たす。そして、その目標を達成するために早く卒業しないといけない。毎日のそれぞれの科目ももっとまじめに勉強しないといけない、予習もしないといけない、復習もしたほうがいいというふうに、いわばやる気を起こすというか、それを現実よりももう少し高いところ、卒業後のことに照準を当てるべきではないかと。そのほうが結局は近道ではないかという考えがずっと初めからあったのですけれども、ついにこれをやらないと、今だという点で、平成23年、去年の3月にこれを、国際交流力という国際感覚を学生のうち——学生というのは、6年生までのアンダーグラジュエートの学生の中に増強しておく必要があるということで、それまでシドニー大学だとかコロンビア大学、あるいは中国の大学へ学生相互交流、リムジン交流をしていましたけれども、行くばかりではなくて、どんどん本学にも来るようになってきますと、そういう感覚ができるのではないかと。内向きの学生を教育するのにはいいのではないかと。外向きの学生を教育するのにはいいのではないかと。

そして、ひいてはそれをするためには、この6年間で

は国家試験を通ることだけしか勉強してこなかったから、やっぱり、それ以降のもっと奥深い歯科医学のことを研究するために、大学院の力をかりないといけないのではないかと。資格だけではなしに大学院での本来の教育の場、これは本学ではここで教育、教育ばかりだったのが、研究力ということでもあります。

さらに、ここには臨床力というのが重要ですが、まだここへ入れておりません。しかし、当然、それもいつか目標として入れるべきか、あるいは自然とそれが評価の高いものとして身につけてきて、本学が昔言われたように、非常に高い臨床力を誇っていた時代が本学にあったわけですから、あれをまた再現できなければ、また第3番目の「力(りょく)」の目標をつくらないといけないというところでございます。

#### 平成24年度事業計画について

平成24年度からの事業計画を5つ。これは、今井理事長のときからやってきたものを受け継ぎまして、それをずっと掲げております。内容はどんどん変わってまいりましたけれども、このような形をとっております。

### 事業計画(平成24年度～)

- I. 教学(学部教育)の改革
- II. 大学院力の量・質的増強
- III. 教員人材育成力の改革
- IV. 附属病院の改革
- V. 両専門学校の改革
- VI. 特別重点計画

まず、「教学」は学部教育の改革ということで、「5つの力(りょく)」の目標を早く軌道に乗せるためであったのですけれども、これにはまだ改革が少し残っていることがあります。

「大学院力」、これは「3つの力(りょく)」のあれですね。量的、質的な増強。

それから、「教員人材育成力の改革」、これも規定までつくって始めておりますけれども、これも手を抜いてはいけません。

「附属病院の改革」、当然、これもやるのが非常

にたくさん山積しております。最近では現体制でもって非常に活発になってきておりますけれども、さらにまた改革するところがあると思われま

す。それから、両専門学校です。100周年を経た大学という歴史は全国に3つしかないわけですから、そのところが歯科衛生士、歯科技工士の専門学校を衰退させては何にもならない。これをやっぱり、ほんとうに生き生きとして、3つのかなえの1つの両翼、あるいは両方の車輪のごとく、我々はそれを活発にしないといけないという意識はずっと持っております。この時代にあ

って、それをどう改革するか。1つもこれをクローズさせることなく、どうすればいいか、これも大きな問題であります。

I a. 教学の改革

これから、「特別重点計画」は、昨年までは100周年記念事業と21年ぶりに大阪に来ました第22回歯科医学会総会の2つを挙げていたのですが、今年は残すところ1つ。

この目次に従ってもう少し詳しく述べたいと思います。まずは「教学-a」というのは、1年生から6年生のアンダーグラジュエートの改革であります。やはり、今、一番必要としているのは学生の学力、あるいはこの4つのところの部分の項目に大分絞られてきましたので、それを整理してあります。

平成24年度からの事業計画 重点計画

I . 教学-a(1学年~6学年)の改革

- 1. 入試倍率 : オープンキャンパス充実  
・指定校・公募推薦の拡大
- 2. 低学年学力 : 入学前準備教育と初年時教育  
・"新カリキュラム2012"の開始
- 3. CBT時学力 : 教育アドバイザーによる少人数学習  
・65%合否基準の開始  
・科目別成績の分析
- 4. 学士時学力 : 学士1, 2の本試験合格を目指す  
・教育アドバイザー、父兄保護者 } 総動員態勢  
・学年指導教授、助言教員

まず、入試倍率、入試ブランド力ともいいですがけれども、これを何とか……。これが、競争倍率が2.0倍以下になりますと、0.5倍でも、2倍を超えますと、非常に大きな顔ができます。昨年の読売新聞にデータを出されましたように、実質上、歯学部で2倍を超えている

のは国立大学の大部分と、私立では昭和大学と本学の2つだけだった。本学は2.05倍だったんですけれども、そういう倍率を何とか増やさないといけない。これは大学の機関としても、あるいは歯学部を掲げる大学としても必須の部分。本学はオープンキャンパスが非常に好評を得ておりますので、これをさらに充実してやることは大きなことだと思っております。

具体的には、いろいろありますけれども、また、これを担当される先生方がやってくれているのですが、特に近年、力を入れ出したのは、指定校推薦と公募推薦をもっと拡大していこうと。従来28名にとどめておりましたけれども、もう少しとりたいたいということで、それも学力を見ながら、とりたいたいということでございます。倍率も上げることに一役買う。

それから、低学年の学力が、これは無試験で通っていったみたいに、AO入試だとかいろんな入試をやっている大学もありますけれども、低学年の学力がなかなか見えてこない。入学してから見えてこないではのんきな話なんですけれども、入学前準備教育と初年時教育というのをやらないと、これが後ほどの専門科目を、あるいは国家試験を学ぶ上での成績に直接に影響するということがよくわかってきましたので。低学年というのは1, 2年ですね。1, 2年を緩めますと、ずっと6年間、緩みっ放しになるというデータもあります。「新カリキュラム2012」というのをずっと検討してまいりましたけれども、いよいよ1年生から今年から始まる。全部やるのには5, 6年かかるわけなんですけれども。それは今までの科目別撤廃による欠点だとかゆとり教育の欠点だとか、いろいろ欠点がわかってきましたので、それを改善して、新しいカリキュラムを実施していきます。

それから、CBT（コンピューター・ベースド・テストイング）という試験がありますけれども、これは専門の教育の成績を入試センターで採点してくれる全国規模の試験で、これが国家試験に変わっていくだろうとされているものであります。これはいわゆる専門の知識の集大成、その実力があらわされるのがCBTです。もう1つ、OSCEというのがあります。これは実技がアンダーグラジュエートでわかるということです。その2つがあります。特に本学では、CBTから目を離せないということです。

それで、本学には教育アドバイザーという先生がお

二人、今、教員の中におられます。その方はどの科目だけを教えているというのではなくて、担当した全体の少人数学習をしていただくということで、これは各大学でもどんどん増えてきてまして、医学部でもこの教育アドバイザーが非常に増えてきております。CBTの力をかりて、それを実施しようということです。

そして、いよいよ卒業する、学士試験時の学力ということで、学士試験1というのと2というのが本学の以前からの卒業試験に当たりますけれども、これを本試験で合格した人は85%から90%が国家試験に合格するんですよ。これは前からわかっている。本学だけではなく、他の大学でもそうです。

問題は、これの再試験を受けた人が国家試験の合格率をガーンと下げているということが判明いたしました。ですから、何と再試験で通った人のよくて3割、30%しか通らない。通常は15%ぐらいしか通らないんです。その15%しか通らない人を卒業させているから、85%通る人と一緒にすると、80%をなかなか超えにくい。そういう現状が今、本学にも見えるわけです。

### I b. 教学の改革（新規）

これを上げるためには、今までずっと昔から、試験の合格科目もそうですけれども、合否の基準は6割、60%を基準にしてきましたが、これを65%にした方がいいのではないかと。1年生からずっと65%。試験もそう。そういうものの改革。これもすぐにもできないので、入学時に父兄に言うておかないといけないし、学則改正みたいなものをしておかないといけないということがあります。

## 平成24年度からの事業計画 重点計画

### I. 教学-b(新しい教育・学習形態の導入)

1. 欠席・遅刻の厳密点検→生活習慣の規律化
2. 新カリキュラムの開始→学年制、科目別評価等メリット
3. 65点(%)合否基準の実施→CBT、学士Ⅰ、Ⅱ
4. 全国模擬試験の導入
5. 教育アドバイザーによる少人数クラス設置
6. 第5・6学年—附属病院と同一学舎で一貫教育

もう1つは、科目別の成績がなかなかわかりにくい

んです。これは文科省も厚労省もそうですけれども、国家試験に向けて、あえて科目別を撤廃してきたんです。それで、総合的に。それにコア・カリキュラムが、科目別がわからないようにしてしまった。そのおかげで学生の勉強の仕方が一時戸惑ったわけで、成績が非常に落ちました。落ちましたけれども、成績のいい人はもちろん通るんですが、これを今度改善しようということで、従来のほうに戻すということです。

したがって、卒業する前には、もちろん学年指導教授と助言教員に加えて、教育アドバイザーの先生とご父兄にもどんどん通知して、あるいはこちらへ来てもらって、呼び出しみたいな感じでして、この4グループでもって、1人の学生をしっかりと評価し、アドバイスしたり、指導したりしているわけです。総動員体制をとらざるを得ないという状態に。

その中で一番重要なのが、何かわかってきたことは、やっぱり遅刻しないとか、朝きちっと起きるとかいう生活の基本的なあれができていない人、しつけみたいなのが影響するみたいで、それをうまくクリアした人はすいすい通っていく、卒業していく、国家試験に合格していく、そういうことがくっきりと統計にも出ておるようなわけです。いかにしてそれを徹底するかということで、やはり、ご父兄の力をかりないと、今は昔に比べて非常に問題といたしますか、学習する内容が増えておりますし、難関になってきております。

これは、本学の過去11年間の入試倍率をあらわす1つとして言っているんですけれども、志願者状況です。ずっと28人をとっていた時代から、かなりとれるようになってから、40人もとれるようになってから、昨年のように60人もとった年もありますけれども、こういうような状態であって、一たん増えていたんですが、またちょっと……。これは歯学部の人気が少し低迷したときがあったということと連動しているわけでありまして。今年は40人入れますよというのに、40人きっちり来たんです。40人きっちり。合格したのは37名というのがあります。一般入試はこれから始まります。

もう1つ、違った局面といたしますか、これは同じようなあれをずっとまたまとめたものなんですけれども、新しい教育とか学習形態の導入ということで、内容に入ったものです。欠席、遅刻を一層厳密に点検しないと、ちょっとこれを緩めると、生活習慣そのものがルーズになってきて、そして、不合格になったり、留

年したり、そういう人が増えてくるんです。これが現在、非常に難しいんですね。よくできる人とできない人の違いはこの欠席と生活習慣にあるだけだという人もいるくらいです。

それから、新カリキュラムを、学年制と科目別評価制の特徴を持って、いよいよ今年から開始する。合格基準を5点上げると。東京の学校では70点にしているところもあるという、そんな競争の時代に入りました。

それから、自分の模擬試験というのが全国でどのくらいにいるかというのはたちどころに出るんですけども、これの欠点は、強制的に受けさせることができない。欠席する人が出てくるんですね。試験になると怖がって、それを欠席する。勉強していないということがわかってしまうから試験を受けたがらないと。これを受けさせるにはどうしたらいいかということですね。欠席者は大抵成績の悪い人ですね。

それから、今、天満橋に記念ホールを建てている、講義室を建築中ですけども、これは、学舎が楠葉と天満橋に分かれている欠点を何としてでも、病院のあれと、こちら、京阪電車に乗って通う、これの無駄を何とか省けないかということで、一番悲痛なニーズがあったわけで、それを同窓会の先生方にも呼びかけて、多額の寄附をいただいて、それで、そちらにも教室をたくさんつくることができそうです。完成は平成25年の3月ですから、ちょうど来年の4月からそういうことになります。そうすると、随分違って来る。

これは現役ですけども、過去11年間の国家試験の合格率の順位というのがずっとこういうふうになってきている。ここで2回、目標設定してからは少しずつ、ちょっとでこぼこはありますけれども——ここはちょっと間違っていますね。これはちょっと落ちて、7位か8位だった。

さて、次、今年はどうなるかというのはまだ決まっておきませんので、あれです。今までの成績から言うと、あまり振るわないかもわかりません。しかし、だんだんと学生も下の学年に伝わって行って、のんびりムードを早くから改善するということできておりますので、レールは敷かれてありますので、確実に1年も早くベスト3に入らないといけないということがございます。

今まで申し上げましたことは本学の特徴で、やはり、これは私立大学の存亡にかかわる問題で、ある意味で

は、国と政府とどちらがつぶれるのが早いかどうか。強制的につぶすことはできないけれども、これの弱いところは自動的につぶれるから、それを待っているという状況に置かれています。ですから、国家試験合格率が低いと、今の定員もとれませんし、これは大学の存亡に直接かかわってまいります。定員割れもしやすいし、だんだんと財務もあれです。

財務改善はほんとうに簡単に片づかない重要な問題であります。これをいかにして、現在までの規模をキープしながら改善していくかという大きな課題でございます。最も重たい課題でございます。先ほどと同じあれですね。これをアップさせるために、あるいは、究極にはこの赤いところに力を入れようというのが新しい計画です。

## II. 大学院力の増強

次に、大学院力をやはり高めていかないといけないということで、大学院生の入学倍率をもっと増やさないといけない。東京歯科大学は本学の30名の倍ぐらいあるんですけども、それから比べてまだ本学は少ないほうでございますので、もっと増やしていかないと。これは量的増強、量的整備といいます。

## 平成24年度からの事業計画 重点計画

### II. 大学院力の量・質的増強

1. 大学院生の**入学倍増**計画
2. **大学院教授**の増強
3. **募集定員**の拡大、**社会人院生**の拡大
4. **外国人院生・受入れ**の奨励
5. **修士課程**(衛生士、技工士)の増設

それから、2番目は大学院教授の増強ということで、やっぱり、学生が次、卒業してからすぐにどうするかというときに、大学院の枠といいますか、大学院教授を増やしますと、そこが大学院生をとれるようになりますので、そういう方向の改革をしていかないと伸びないんだという気がします。韓国のように、国によってはほとんど強制的に大学院へ行かせるような大学も、これはすべての大学じゃないんですけども、整って

きた大学から順番に強制的に11年間行かすというのがあります。

それから、大学院の募集定員の拡大というか、社会人入学生者の拡大というのがあります。昨年から外国人入学生といえますか、大学院への入学生者の受け入れ奨励というのがありますけれども、こちらの受け入れ体制がまだ、英語でずっと指導しないとイケない面がありますので、それがちょっと全部の講座にというわけにもいかないの、まだ少しあれですが、徐々にというのが広がって、受け入れてくれるところが増えてくるということで、これは今後もどんどん増やしていく。日本の授業料そのまま外国から来てくれるんですから、これは財務的にも非常に助かるのではないかと。設備は十分我々にはありますし、あと指導者さえおれば何とか受け入れられる。

それから、歯科衛生士さんとか技工士さんのための修士課程。これは短大とか四大をつくるよりも、こちらのほうのメリットが大きいのではないかと。しかも、短大卒の資格が得られる、それから四大卒の資格もそこから派生して得られるということにつながりますので、やはり、これはどうしても大学院に併設といたしますか、増設をしていく必要がある。このほうがずっと早道であると今は考えております。特に歯科衛生士さんはかなり修士課程へ行きたいがる、希望者が非常に多いみたいですので、最低、短大、あるいは四大を出たと同じ資格で社会へ出ていけるということがメリットになります。

ですから、大学のアップ計画と大学院というのはほんとうに密に結びついているわけでありまして。

### Ⅲ. 教員人材育成

そういうことで、次は3番目、教員人材でございます。これは、教員評価を実施してから2年目、本格実施に入っておりますので、その成果が非常に上がってきております。

それから、第5、6学年を天満橋で一貫教育。これは正式には平成25年からでありますけれども、これで教員人材が大分有効利用できるということになります。

次に、講義室とか自習室の増設です。これは学生にとって、特に自習室は非常に欲しいところがございますので、これも整備していかないとイケない。

大学院教授・教員の新規任用を可能にすると。これ

はまだこれからの計画でございますけれども、これを増やしていく。教授とか教員を増やしていくということです。

## 平成24年度からの事業計画 重点計画

### Ⅲ. 教員人材育成力の改革

1. **教員評価**→実施結果の分析と報奨・顕彰  
本格実施 「教員評価調査表」  
「講義に対する授業評価表」
2. **第5・6学年を天満橋で一貫教育**→平成25年
3. **講義室・自習室の増設**  
→臨床系教員力アップ、学士・国試の教育力アップと病院の増収を図る。
4. **大学院教授・教員の新規任用を可能にする。**

23

これまでの4年間あるいは3年間の教員人材に関しての達成度です。本学では任用基準、任用規程を随分つくりました。それで、もう実施しております。特に専任教授を置くことができるということになったので、それぞれの特徴をあらわした人材が育ってきているということで、これは将来的に非常に明るいですね。

それから、大学院修了者、学位を持った方で、2年以上海外留学した方は、こちらに籍がなくても残れるというか、そこに採用できるということの任用規程が実施されております。そして、それに該当した方が、既にこちらで就職している人もいます。そういう方のキャリアパスは、非常にくつきりと、10年後には教授になれるんだ、なるんだという人生設計も開けるわけです。

それと、本学の特徴として、これもずっと例に挙げているんですけども、大きな団塊の世代で定年退職して、教授の数ががばっと減っていく。現在26名の主任教授がおられるんですけども、定年等による欠員がこの年で4名、この年で1名、この年で6名欠員します。これから5年間で11名欠員します。それから、さらにこの5年というのが多いですね。12名。さらに一気に2名、3名、5名なんていう年もありますので、非常に大変です。ここに6名という、平成27年（2015年）。その後の人材を育成しておかないとイケない。

それで、学位を獲得したら、助教に採用できる。論文数が要りますけれども、講師になる。それから、准教授になる。それから教授、主任教授か専任教授にな

れるというあれですね。それを上る中に、もう1つ新たに星印がついておりますが、大学院教授の充足論文数を改正していくのも今年からのですね。21年度からこのキャリアパスは言っているんですけども、これは24年度に何とか、大学院教授を増やす意味で、充足論文数を改正する、ちょっと増やすというか、研究力をアップして、さらに大学院の指導体制を整えるためには大学院教授の論文数がちょっと少ない人がいると。そういう形が本学にくっきり出てきましたので、これを改善しないとイケない。

#### IV. 附属病院の改革

次、ほとんど最後です。もうしばらくご辛抱願います。4番目、附属病院の改革です。

### 平成24年度からの事業計画 重点計画

#### IV. 附属病院の改革

1. 収支改善による独立的健全運営化
2. 黒字期待の新設科オープン
3. 病院運営貢献者への顕彰・報奨
4.  $\frac{B}{C}$  考慮の支出、経費の見直し
5. 各部署ごとの収支改善を提案

これもほんとうに皆さん、頭を痛めているところでございますけれども、本学の踏んでいる一番の欠点といいますか、どうしても赤字が増えてくる理由は、やっぱりキャンパスが離れているということで、ベテランの助教だとかベテラン講師、准教授の方がドア・ツー・ドアで往復2時間かかるんですね。こちらで講義するために来たり、実習の指導をするために来ている。教授はいたし方ないとして、そういうベテランの教員があまり病院におれない状況にあるんですね。だから、本学は若い研修医のような先生が圧倒的に多いんです。診療している。これが財務的にも収支的にも非常に重く出ているのではないかという気がいたします。

それと、本学には兼業といいますか、兼務をする、いろんな学校へ出張して行っているというか、講義のために派遣されて行っている、これが非常に多くなった。せめて国立大学並みに週1回だけは出られるとか、1

カ所だけは行けるけれども、3つも4つも兼ねてやりますと、本件の教育がおろそかになる、あるいは病院での診療がおろそかになるという問題が起きかけておりますので、これは大分改善いたしております。

#### V. 両専門学校の改革

今度は、両専門学校の改革に早く手をつけないといけません。これはともかくまず、歯科技工士専門学校はどうしても定員割れというのは、本学だけではなくて、これは日本全国的に募集力の改善に全力を挙げるとというのが当面のターゲットですね。それで、社会のニーズの非常に高いようなカリキュラムを率先してつくるとか、あるいは学校名を、すぐに役立つといえますか、そういう学校名に変えるとかいうことも1つの方法だと思っておりますし、大学院の修士課程に接続しているというのも1つの長所になるかと思っております。

### 平成24年度からの事業計画 重点計画

#### V. 両専門学校の改革

1. 歯科技工士専門学校→募集力改善に全力
  - ・学校名称変更など
  - ・大学院修士課程へ接続
  - ・カリキュラムを卒後ニーズに
  - ・3年内の効果評価
2. 歯科衛生士専門学校→さらに入試倍率アップ
  - ・募集人員の拡大
  - ・大学院修士課程へ接続
  - ・関連資格の取得制度
  - ・3年ごとの効果評価

それから、歯科衛生士専門学校は入試倍率は随分あるんですね。ですから、その点での赤字ということはないんですけども、さらに募集人員の拡大と、このごろ、ほかの医療系、介護系の資格も取れるようにならないかというのが、短大をつくるよりもずっと早道ではないかというふうに来ております。それを、3年ごとに何か1つのアイデアを実現してほしいという形で、今年から少しでも実現に向けて動き出さないといけません。と思っています。

やっぱり、この4つが喫緊に大学全体としては残ってくるんですね。

### VI. 特別重点計画

さて、我々が昨年、特別事業計画として、ほんとうに100周年、100周年と言って1年が暮れました。スローガンはこんな形で、この記念事業の柱7つにつきましてはほとんどできているんですけども、これについて詳しく申し述べるのは来年になろうかと思えますけれども、少なくとも、7つもの記念事業を達成して残すことができました。それについてはまだ記憶に新しいところですから、ちょっと時間の関係もありますので詳述は避けさせていただきますけれども、エネルギーを相当、全学一丸となって挙げてくれました。

#### 創立100周年記念事業の完成

スローガン: 「誇りと誓い—<sup>しんしん</sup> 夔夔たる大樹へ—」  
大阪歯科大学創立 100 周年

記念事業の柱:

- ① 記念式典 2011年11月11日(金)
- ② 本学発祥の地への記念碑設置
- ③ 記念事業募金
- ④ 天満橋へ講義室建設, 平成25年竣工
- ⑤ 出版物の刊行(自校史あゆみ, 100年史, 院50年史)
- ⑥ 記念講演会 11月12日(土) リーガロイヤルホテル
- ⑦ 歯科医学の歴史的資料(史料)の収集



### VI. 特別重点計画

重点計画



今年、どうしてもやらないといけないというのが、21年ぶりに本学に主幹校が回ってきました第22回の日本歯科医学会総会、これが11月9日、10日、11日に、「お口の健康 全身元気」ということで大々的にやります。このように文楽人形をテーマにしております。ここの治療をすることによって、元気になる人は元気になる、全身が元気になって、まゆ毛が上がって、目がつり上

がるということをイメージしております。

### 日本歯科医学会総会概要

お口の健康 全身元気  
—各世代の最新歯科医療—

## 第22回日本歯科医学会総会

The 22nd General Meeting of the Japanese Association for Dental Science

**会期** 平成24年11月9日(金)・10日(土)・11日(日)

**会場** 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)  
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島3-5-1 TEL.06-4803-5555

インテックス大阪  
〒530-0005 大阪府住之江区南港北1-5-102 TEL.06-6612-8800

**URL** <http://www.jads.jp/22ndGM/>

22nd JADS OSAKA 2012

このように9日、10日、11日で、大阪国際会議場とインテックス大阪を使います。これはやはりビッグイベントですので、大阪へ来る、こんな規模でやるのが最後ではないと言われるぐらいのものです。これをつくった本学の白敷理事長・学長がこの22回になるもとを始められたものです。それが最後にまた大阪へ回ってくるというのも因縁ということを感じるわけでありまして、これが歯科医師会と歯科医学会を合わせた知識の祭典であります。開会講演には、IPS細胞でノーベル賞候補の最有力者の山中伸弥先生がこれに出演していただく。日本医学会総会には出られなかった人が歯科医学会総会に来ていただけるということで、全国からメディアが集結すると思われま

す。もう1つ、インテックスの広い会場をフルに使っていただいて、「デンタルショー2012」をこのように開くということ、これもほんとうに両方が相まって、少し距離がありますけれども、あそこを行ったり来たりしながら。以前にこれをやったときに比べたら少しは交通の地下鉄の便もよくなっておりますし、いいんですけども、これも何としてでも成功させないといけない2つのビッグイベントでございます。今年はこちらにかなり注力を余儀なくされると。

やっぱり今年も、今まで計画しました事業計画をぶれることない気持ちで貫きたいと思っております。

では、これで、今年の計画の概要で、少し説明がまだ十分でないところが出ましたけれども、大変長い時間になりましたが、ご清聴ありがとうございました。

平成 24 年 1 月 5 日

### 定年退職

3月30日、今年度で定年退職される8名の教職員の辞令交付式が行われた。このたび、定年退職されたのは長谷山則夫さん、池田良則さん、大上 登さん、仲宗根幸男さん、福西 環さん、加地公夫さん、西村 謙さん、田中照代さんの8名です。退職にあたり一文を寄稿していただきましたので、掲載します。



池田・長谷山・大上・田中・西村・仲宗根・加地・福西の皆さん

### 定年を迎えて

大学院課 池田 良則

本年3月末日をもって定年退職いたしました。長きに亘り皆様にご指導とご厚誼をいただき大きな節目を迎えることができました。少し前まで若僧であった自分が定年を迎えたことは驚きです。



希望に溢れていた若き20代、学校事務という仕事に就き社会人として喜びのスタートを切りました。心身ともに疲れを知らない元気な頃、附属病院の保険事務が最初の業務でした。その後、大学、法人等の事務を経験いたしました。その間自分なりに自己啓発に努力もいたしましたが、多くは周りの皆様のお力添えでなんとかやり遂げられたことであります。

今でこそ、仕事と生活の両立、調和の大切さが叫ばれる世の中となりましたが、当時は仕事優先の時代でした。自分なりに黙々とやってまいりました。仕事を通して世の中のこと、社会人としての生き方を勉強し自立成長させていただいた思いがいたします。困難に立ち向かっている時も、喜びの時も、過ぎ去れば時は結構早く流れるようであります。

学校法人大阪歯科大学の益々の発展と皆様のご健康とご多幸を祈念し、お礼の言葉とさせていただきます。有難うございました。

### 定年退職にあたり

施設課 大上 登

平成24年3月末日をもって定年退職を迎え、昭和43年6月10日に大阪歯科大学にお世話になって以来、本学在職43年10ヶ月、数々のご指導を賜りました教職員の数多くの方々のお力で無事定年退職を迎えることが出来ましたことに対して、心からお礼申し上げます。



振り返ってみれば長いようで短い43年余りで、数々の思い出がよみがえってきます。採用された当時は、夏季期間中に大学の懇親旅行があり、夜の宴会では日頃、会話をするのがない教職員の方ともカラオケ・麻雀など楽しく過ごしたことが思い出され、今も鮮明に覚えています。

研修会にも多く出張させていただき、他の大学の方とも交流することができ、見聞を広げることができました。また、平成9年4月1日より移転に伴い楠葉学舎が開校し、新しい環境のもと仕事をするに際し設備等を把握するのに大変苦勞しました。

平成23年11月11日(金)・12日(土)の両日には、本学創立100周年記念式典が大阪国際会議場・リーガロイヤルホテル大阪で出席者多数の中で盛大に行われ、今後、更なる飛躍を期待しています。

最後に、今日まで支えてくださった関係各位に心から厚くお礼申し上げますと共に大阪歯科大学の益々のご発展と教職員皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



### 定年退職のあいさつ

歯科衛生士学校 田中 照代



平成24年3月末日をもちまして、35年勤めさせていただきました大阪歯科大学歯科衛生士専門学校を定年退職することになりました。無事、この日を迎えることが出来たのも、ひとえに皆様のご指導とご支援のたまものと心より感謝しております。



歯科衛生士の歴史を振り返りますと、昭和23年に歯科衛生士法が制定され教育年限1年で歯科衛生士教育はスタートしました。その後、業務内容の拡大に伴い平成元年には、教育年限が2年以上になりました。また、疾病構造の変化や少子高齢化など社会の大きな変化に伴い平成22年には、全ての歯科衛生士養成校の教育年限が3年以上になりました。平成16年には4年制大学が、さらには大学院の設置も始まりました。日本歯科衛生士会では「日本歯科衛生学会」を、歯科衛生士養成機

関でも「日本歯科衛生教育学会」を設立し、歯科衛生士の高等教育化がすすんでおります。

本校は、昭和43年5月「大阪歯科大学附属歯科衛生士学校」として開校しました。私は、昭和50年4月に8期生として入学しました。翌、昭和51年4月には、専門学校に昇格し、校名が「大阪歯科大学歯科衛生士専門学校」と改称され、昭和52年3月に専門1期生として2年間の学びを終え卒業しました。

卒業後、歯科衛生士専門学校に勤務しました。思い出おこしますと入学試験を受けたのが牧野学舎でした。そして三年制養成の移行に伴い平成17年からは、歯科衛生士教育の拠点を牧野におき何かしらの因縁を感じております。ファントム54台のマネキン実習室、チェアーユニット18台を設置したチェアー実習室、第1・2・3・4講義室、図書室さらにロッカールームと非常に充実した環境で教育は展開されており、昔を振り返ると夢のようです。

歯科衛生士教育は、基礎科目、専門基礎分野、専門分野あわせて93単位(3,165時間)で行っておりますが、大半の授業は歯科大学の先生にお願いしております。暑い日、寒い日、雨の日あの牧野阪を越えて講義に足を運んでくださる先生、附属病院での臨床実習を指導して下さいます先生、歯科衛生士皆様のおかげで、今年も歯科衛生士になる夢をもって入学した生徒達全員にその夢がかないました。これもひとえに先生方をはじめ皆様のお陰と感謝の気持ちでいっぱいでございます。これからもよろしくご指導のほどお願いします。

最後になりましたが、大阪歯科大学のますますのご発展と、皆様のご健康とご発展を心よりお祈り申し上げます。



平成24年度 事業計画

はじめに

平成24年度は、大学創立100周年を経て、その歴史に新たな1ページをしるす重要な年である。

創立100周年という大きな節目に際し、計画した記念事業は大学全体が一致団結して取り組み、計画どおり実行された。また、実現されつつある。100周年の大事業における最も大きな収穫は、建学の精神「博愛公益」を掘り起こし、創立者藤原市太郎の理念・精神が広く学内外に認知され、賞賛を受けたことである。藤原の言葉は、明治期の公的な歯科教育が不毛な時代にあつて民間人として歯科教育にたずさわっていた人々の思いと覚悟を代弁していたといえる。

藤原の「博愛公益」は、現代においても決して色あせることなく、確固たる存在感を持っている。昨年、そうした創立者の精神を受け継ぐ建学の精神をあらたに定めた。「歯科医学・医療に関する専門知識、技術の習得と共に、思いやりの心を涵養し、自らの選んだ道に深い使命感をもって、社会に対する奉仕的人生観を体得して、『博愛』と『公益』に努める」である。これを歯科教育の基本に据え、学生教育の再生と活性化に取り組みたい。社会に貢献できる人材を育てることが教育の使命である。その上でこれまで提唱してきた「五つの力（りょく）の目標」と「三つの力（りょく）の追加目標」の実現に向け改革を進めていく。

一方、歯科大学を取り巻く状況はさらに厳しいものとなっている。18歳人口の減少、歯科大学志願者数の減少、そして多くの大学で入学定員割れが起きている。平成22年度、23年度の17私立歯科大学・歯学部志願率はそれぞれ2.2倍、2.3倍であり、入学定員充足率は68.0%、69.6%と厳しい数字を示している。今まさに、歯科大学は存続の岐路にある。五つの力の目標の一つである「入試倍率のアップ」が喫緊の課題となっている。

また、こうした状況は大学の運営にも大きな影響を与えている。本学は平成21年度から学費を値下げしたが、収入面でのマイナスは10%を超える。さらに、入学定員の一律削減が拍車をかける状況にある。大学を運営していくためには安定した財政基盤が必要であり、引き続き大学、附属病院、専門学校の経営改善と効率

化に取り組んでいく。とくに附属病院の収支改善に重点的に取り組む。

最後に、創立100周年記念事業の一つである「100周年記念館」の建設と11月に開催される「第22回日本歯科医学会総会」の開催に全学挙げて取り組む。

平成24年度事業計画

- I. 教学（学部教育）の改革
- II. 大学院力の量・質的増強
- III. 教員人材育成力の改革
- IV. 附属病院の改革
- V. 両専門学校の改革
- VI. 特別重点計画

I. 教学（学部教育）の改革

創立者の言葉「博愛公益」を基本にした建学の精神「歯科医学・医療に関する専門知識、技術の習得と共に、思いやりの心を涵養し、自らの選んだ道に深い使命感をもって、社会に対する奉仕的人生観を体得して、『博愛』と『公益』に努める」を歯科教育の原点とする。入学時の早い段階で、「大阪歯科大学のあゆみ」等の教材を用いて本学の歴史および歯科教育者たちが歩んできた道を学ばせ、歯科医師になる目的を明確にして誇りと責任感を養う。その上で「五つの力の目標」に基づき、具体的な歯科教育を進めていく。また、教育研究環境の整備に努めながら不断の教育改革を進めていく。

1. 入試倍率

歯科大学への志願者が減少している状況を踏まえ、本学の認知度・好感度の向上させる努力が必要であり、入試倍率のアップに努めたい。そのためには、オープンキャンパスの充実とともに受験生をひきつける魅力あるホームページづくりと情報更新が重要である。また、指定校・公募推薦枠を拡大させてきた。一方、入学選抜方法について検証するとともに優秀な学生確保のため学費減免措置についても検討する必要がある。何よりも優れた人材を確保することが国試合格率の向上につながる。

2. 低学年学力

入学を認めた以上、大学は学生を一人前の歯科医師として社会に送り出す責任を持つ。入学時の学力の個人差を埋めるため、とくに推薦入学者には入学前に準

備教育を施すなど、初年時での教育に注力する。根気よく大学での学習スタイルを身につけさせ、6年間支障なく勉学が続けられるよう取り組む。また、平成24年度より「新カリキュラム2012」を開始する。

### 3. CBT時学力

全国共通共用試験であるCBTは臨床に入る前の第1回目の国家試験といえる。試験結果は学校単位で評価されるため、CBTに1回で合格できる学力を4年間で養成し、最終的な歯科医師国家試験につなげていく。また、合格基準を65%とし、科目別成績の分析を進めていく。

### 4. 学士時学力

学士試験1・2をそれぞれ1回でパスし、その上で歯科医師国家試験に臨めるよう5年生、6年生を天満橋で一貫教育することを基本に学習環境の改善に取り組む。教育アドバイザーを置き、学年指導教授・助言教員とともに総動員態勢で臨む。

## II. 大学院力の量・質の増強

昨年「三つの力の追加目標」を掲げ、大学院力の増強と研究力の向上を目標とした。大学院を魅力あるものにし、入学希望者を増大させることが研究の活性化につながる。昨年は中国からの留学生が3名大学院に入学し、明るい兆しが見えてきた。さらにこの傾向を広げ、大学院の活性化とともに国際的な研究の拡大へとつなげていくことも期待している。

### 1. 大学院生の入学倍増計画

引き続き、大学院生の総数増加を課題に魅力ある大学院にすべく研究環境、指導体制などの改善に取り組む。

### 2. 大学院教授の増強

大学院生を増加させ、研究力を向上させるためにはその指導体制も充実させなければならない。そのため大学院教授の増強に務め、指導環境を整えていく。

### 3. 募集定員の拡大、社会人院生の拡大

大学院募集定員の増加および社会人入学制度について具体的に検討する。

### 4. 外国人院生・受入れの奨励

外国人留学生受入体制をさらに充実させていく。

### 5. 修士課程（衛生士、技工士）の増設

修士課程の増設について引き続き検討していく。

## III. 教育人材育成力の改革

教員評価の結果に基づき、教員一人ひとりが学生教育の方法を改善させるとともに評価の高い教員は、報奨や顕彰に反映させていく。教員評価を継続して実施することで本来の目的である教育人材育成力につなげていきたい。

### 1. 教員評価－実施結果の分析と報奨・顕彰

教員評価の実施結果の分析に基づき、報奨や顕彰に反映させていく。

### 2. 第5・6学年を天満橋で一貫教育

100周年記念館の完成する平成25年から天満橋で第5・6学年の一環教育を始める。

### 3. 講義室・自習室の増設

100周年記念館の完成により講義室と自習室が増設され、歯科医師国家試験に向けて学生の教育環境を整えることが可能となる。学生は勉学に集中することができ、先生方も楠葉と天満橋を往復することなく天満橋学舎で教員力を存分に発揮できる。

### 4. 大学院教授・教員の新規任用を可能にする

大学院増強に伴い、規程に基づき大学院教授ならびに教員を任用していく。

## IV. 附属病院の改革

附属病院の改革については、早くから収支改善による健全経営という基本戦略を打ち立て、様々な提案がなされてきた。しかし、大学全体の収支が学納金の減額により今後さらに悪化していくのは確実であり、加えて学生定員の削減も予想される状況にあるため、附属病院は独立した組織として当事者意識を持って効率的な運営に取り組む必要がある。

### 1. 収支改善による独立的健全運営化

附属病院が独立採算の観点から収支改善に取り組む。

### 2. 黒字期待の新設科オープン

患者さんのニーズに対応した新設科オープンを検討する。

### 3. 病院運営貢献者への顕彰・報奨

病院の運営あるいは医員として貢献している人を顕彰・報奨していく。

### 4. B/C考慮の支出、経費の見直し

独立採算の観点から支出、経費の見直しを行う。

### 5. 部署ごとの収支改善を提案

各部署から積極的に収支改善策を提案・実行する。

### V. 両専門学校の改革

両専門学校の改革については、専門学校財政改善等検討委員会に付託しており、大学を含めた総合的な歯科教育機関という枠組みの中で検討している。今後は、3年ごとに改善状況を評価していく。

#### 1. 歯科技工士専門学校

学生数が減少しており、入学定員を減らす措置をとったが、まず募集力改善に全力を挙げて取り組む。

#### 2. 歯科衛生士専門学校

入試倍率がアップしており、募集人員の拡大も期待できる。関連資格の取得制度なども進めていく。

### VI. 特別重点計画

#### 1. 創立100周年記念事業の完成

創立100周年記念事業で継続している「100周年記念館」建設と「大学100年史」等出版物の刊行を平成24年度中に完成させる。

#### 2. 第22回日本歯科医学会総会の主幹

2012年11月9日（金）～11日（日）に開催される「第22回日本歯科医学会総会」の準備に主幹校として全学的に取り組む。

## 第105回 歯科医師国家試験結果

第105回歯科医師国家試験の合格発表が3月19日にあり、本学は新卒者が100名受験して64名が合格し、合格率は64.0%であった。既卒者を含めた全体の合格率は49.0%で、昨年と比べて新卒者、既卒者ともに低調な結果となった。

全国の合格者数は2,364人であり、合格率は71.1%で昨年とほぼ同率であった。

第105回歯科医師国家試験結果

受験者数		合格者数	不合格者数	合格率
新 卒	100	64	36	64.0%
既 卒	57	13	36	22.8%
合 計	157	77	80	49.0%
全 国	3,326	2,364	962	71.1%

## 第19回 公開講座「枚方講座」開催

第19回大阪歯科大学公開講座「枚方講座」が、2月25日、3月3日の2週にわたり土曜日の午後、楠葉学舎講堂で開催され、ともに130名を超える参加者があった。

昨年9月に行われた「天満橋講座」は、台風の影響で1日だけの開催となったが、今回は2週にわたり充実した講演が行われた。演者は、壇上からではなくフロアに降りて参加者と同じ目線で講演し、質問を受けた。



## 平成23年度 解剖体遺骨返還式

平成23年度解剖体遺骨返還式が、去る3月1日（木）午後2時から楠葉学舎3階大会議室において執り行われた。始めに、歯科医学教育の為、自らの身体を提供された26の故人の御霊に対し、参列者一同ご冥福を祈り黙祷を捧げた。続いて、川添堯彬理事長・学長から故人とご遺族に感謝の言葉が述べられ、参列いただいたご遺族、お一人お一人にご遺骨を丁寧に返還された。最後に、解剖学講座諏訪文彦教授から謝辞が述べられ、遺骨返還式は滞りなく終了した。



### 第7回 人権標語入賞者表彰式

3月7日に第7回人権標語入賞者の表彰式が行われ、川添堯彬学長から最優秀に選ばれた大学院3年の大郷英里奈さんらに表彰状と記念品が贈られた。

#### 最優秀作品

大郷英里奈（歯科麻酔学講座大学院3年）

「いたわりの心が人をつないでいる」

#### 優秀作品

池田 英子（教務学生課）

「人と人つなぐ笑顔で 広がる広場」

#### 入選作品

「大切なのは あなたの心の 思いやり」

「話す言葉に あなたの人権感覚 顔を出す」

「過ちも 気づけば そこで糧となる」

「心から取り除こう 差別という 蔓延る雑草」

「気を付けよう！ 何気ない一言 人の心に

土足履き」

「おかおはまあるく ことばはまあるく ころもまあるく」



### 平成23年度 人権講演会開催

人権啓発推進委員会では、今年度の人権講演会を平成24年3月13日（火）に楠葉学舎3号館1階大学院講義室で開催しました。天満橋学舎ともTV会議システムを用いて西館5階臨床講義室に同時中継しました。今回は「自然災害と国際法」をテーマに、本学人権室の李嘉永講師が講演し、楠葉学舎と附属病院の教職員をはじめ多くの方が熱心に受講されました。

李先生は長年人権博物館の学芸員として、人権に関する国際法をご専門とされ、1年前の東日本大震災を事例として、また淡路・阪神大震災も考慮しながら話を展開されました。災害発生時の国際協力の枠組みが確立しつつあることや人権問題の多様性とその解決法についても論及され、国際法と自然災害における人権というなじみの薄い問題にもかかわらず、分かりやすく丁寧に語られました。



被害者救済のボランティア活動が重要なことはもちろんですが、相手の立場に立って援助をすることの重要性も痛感させられました。幸い私たちにはこのような人権教育の場がありますので、一層の学びを深めるべきとの印象を受けました。



神戸新聞に本学教員が連載

平成24年1月10日から、神戸新聞火曜日の夕刊に本学教員が中心となって「目指そう健口生活」を連載している。第1回目は、川添堯彬理事長・学長が我が国の歯科医の歴史について紹介している。

この連載は、週1回のペースで1年間続く予定であり、神戸新聞のホームページにバックナンバーが掲載されている。

(1) まずは歴史から

—1300年以上前からいた歯科医

川添 堯彬 (大阪歯科大学理事長・学長)

歯が痛い、歯茎から血が出る、入れ歯が合わない、口が臭い、顎が痛い…。皆さんも一度はこのような経験をされたことがあるのではないのでしょうか。

歯、口(口腔)、顎は栄養を取るための最初の作業を行い、表情を作り、声を生み出します。生きる上で重要な役割を果たしますが、痛みや腫れがあると本当につらいですね。常にお口を健康に保ち、毎日、生き生きと過ごしたいものです。

ところで、わが国で歯科はいつ頃から存在していたのでしょうか。現存する最も古い記録は1300年以上前、701年制定の大宝律令に見られる「耳目口歯科」です。氏族や官人の子弟から選抜された学生は、現在と同じ6年間の教育を受けていたようです。

その後平安末期の「口歯科」、江戸時代の「口中科」と続き、明治期に「歯科」という言葉が登場します。歯科医師養成のための教育も、この頃から始まりました。大阪歯科大も1911年の設立から今年で101年になりますが、これまでに1万5千人以上の歯科医師を輩出しています。歯科はとても歴史のある身近な医療といえます。

2008年12月現在、全国の歯科医師数は約10万人で、20年前より約3万人増えました。この間、人口は約300万人、医師数は約8万5千人増加しています。兵庫県の歯科医師数は同じ時点で3747人、人口10万人に対し65.4人の歯科医師が医療に従事しています。歯科医師は過剰だといわれていますが、全国平均は75.7人で、県内ではそれをやや下回っています。

歯科では歯に関する異常だけではなく、広く口腔や

顎に見られるさまざまな病気や異常も診ます。現在、医療法では歯科、歯科口腔外科、矯正歯科、小児歯科の四つの診療科が定められ、看板などにはこれら以外の診療科を掲げることはできません。しかし、歯科でも医科と同じように各専門学会が制定した認定医、専門医制度があります。より症状に応じた治療を受けるには、それぞれ認定医、専門医のいる歯科医院を訪ねることをお勧めします。

- (2) 震災と歯科 足立了平 (歯科麻酔学)
- (3) 歯の痛み 内橋賢二 (生理学)
- (4) 歯周病 高津兆雄 (歯周病学)
- (5) 歯周再生療法 高津兆雄 (歯周病学)
- (6) 虫歯の保存修復治療 井上昌孝 (歯科保存学)
- (7) 歯内治療 稲本雄之 (口腔治療学)
- (8) 高齢者の歯科治療 浅井崇嗣 (高齢者歯科学)
- (9) 歯科と放射線 蒲生祥子 (歯科放射線学) 巻末
- (10) 歯の変色 山本一世 (歯科保存学) 巻末

2012年(平成24年)1月24日 火曜日 2

目指そう 健口生活 ③ 歯の痛み

体からのアラームサイン

歯髄は強い木杵感や木杵感、感の精神的苦痛に伴い、しばしば半の息を行動を止めてしまいます。図は歯の縦断面の模式図です。歯の表面を覆うエナメル質は非常に硬く、髪の毛と同様に感はありません。歯の神経(歯髄)は主に神経と血管で満たされ、歯髄への刺激は全て、痛みとして脳に伝えられます。エナメル質とセメント質に覆われている象牙質は、「象牙質」と呼ばれる直徑約1/4程度の細かい管集合体です。神経は存在しませんが、歯髄との間リンパ液の流通があります。歯茎が下がるとは、歯肉の退縮を指し、歯肉が露出すると、リンパ液の移動がセメント質と歯髄の神経が痛み、脳へ信号を送ります。象牙質の管が歯と歯茎の間を繋ぎ、歯髄が痛み、脳へ信号を送ります。図の歯根膜はコラーゲンを主成分とする弾性繊維で、歯を支える歯槽に歯をつなぐ働き、かんだときに歯にかかる衝撃を緩和しています。ここに炎症、圧痛、痛みを感じると、歯槽に炎症が起きます。虫歯の考えず、歯科医院の予約を取らなければなりません。

歯髄は歯の最も内側に存在し、エナメル質、象牙質、セメント質で覆われ、細密な構造から守られています。歯の縦断面図。歯髄は歯の最も内側に存在し、エナメル質、象牙質、セメント質で覆われ、細密な構造から守られています。歯の縦断面図。歯髄は歯の最も内側に存在し、エナメル質、象牙質、セメント質で覆われ、細密な構造から守られています。

近所の歯医場で隣り合わせにお客さんに、私が歯科医であることが知れると「夜中の歯痛をいかに克服したか!」という武勇伝や、「いかに歯科治療の痛さを耐えたか!」などの苦情ばかりの話を聞かせることがよくあります。歯が原因で起る痛は、突然やってくるわけではなく、徐々に、一応同様の面持ちで対応するもの、正真正正に突如と起る痛は、早急発見!早期発見!生活の質の向上を図るとともに、私も決してお話を聞かずに済ませない。(内橋賢二 大阪歯科大学 教授、兵庫独立総合歯生学院 非常勤講師、生理学)

覚道附属病院長が読売新聞で解説

覚道健治附属病院長が、2月20日の読売新聞夕刊の「おしえてドクター」に回答者として登場し、あごの異常、顎関節症について解説した記事が掲載された。



Readers' Digest article snippet titled 'おしえてドクター' (Ask the Doctor) featuring Dr. Kenji Aikido's explanation of jaw joint issues. The text discusses symptoms like difficulty opening the mouth and provides medical advice.

創立 100 周年記念事業募金結果報告

創立100周年記念事業募金の結果について報告します。記念事業募金は昨年10月末日を期限としていましたが、その後も寄付が相次いで寄せられたため、平成24年3月末日での募金結果を最終報告します。ご寄付いただきました各位には心より感謝いたします。

なお、前回の報告で吉田 洋様のご芳名が記載されていませんでした。お詫びして訂正いたします。

◎ 募金結果

Table with 3 columns: Category (法人・団体, 個人, 合計), Number of Donors (件数), and Amount (寄付金額). Total amount is 171,466,740.

(平成24年3月31日)

◎ 寄付者ご芳名

○法人・団体 (50音順)

- List of donors including IHI Transport Equipment Co., Ltd., Akitsu Shoten, Asahi Pri-teck Co., Ltd., and others, each followed by '様'.

寄 贈

下記の寄贈を受けましたので報告します。寄贈いただいた各位には心より感謝いたします。

- 大阪歯科大学第60回卒業生
平成24年3月9日寄贈
卒業を記念して
牧野学舎アネックス学生ホールにソファー一式
498,225円

大阪歯科大学口腔解剖学講座	様	大阪歯科大学・専門30回(みとわ会)	様
大阪歯科大学歯科補綴学第2講座同門会	様	大阪歯科大学・専門32回全国クラス会	様
大阪歯科大学準硬式野球部	様	大阪歯科大学・大学1回(一黎会)	様
大阪歯科大学総合医局会	様	大阪歯科大学・大学7回(七夕会)	様
大阪歯科大学体育会OB連合会	様	大阪歯科大学・大学13回(登美栄会)	様
(柔道部後援会)	様	大阪歯科大学・大学19回(一九会)	様
(空手道部OB会)	様	大阪歯科大学・大学20回(二斗会)	様
(剣道部OB会)	様	大阪歯科大学・大学21回(咬龍会)	様
(相撲部OB会)	様	大阪歯科大学・大学22回(甲寅会)	様
(弓道部弓心会)	様	大阪歯科大学・大学24回(錦会)	様
(硬式野球部OB会)	様	大阪歯科大学・大学26回(早蕨会)	様
(準硬式野球部OB会)	様	大阪歯科大学・大学31回(癸亥会)	様
(ボクシング部OB会)	様	大阪歯科大学・大学33回(燦美会)	様
(漕艇部松頼会)	様	大阪歯科大学・大学34回(壮志会)	様
(ラグビー部OB会)	様	大阪歯科大学・大学37回(平成会)	様
(サッカー部OB会)	様	大阪歯科大学・大学38回(黎明会)	様
(ハンドボール部OB会)	様	大阪歯科大学・大学39回(賛究会)	様
(硬式庭球部OB会)	様	大阪歯科大学・大学40回(齒恩会)	様
(ワンダーフォーゲル部OB会)	様	(株) 駕シヨ	様
(アイスホッケー部OB会)	様	鹿島建設株式会社	様
(洋弓部OB会)	様	鹿島建物総合管理株式会社	様
(ヨット部OB会)	様	(学) 加藤学園 大阪歯科衛生士専門学校	様
(ゴルフ部OB会)	様	鏑木学内文具店	様
(バドミントン部OB会)	様	亀水化学工業株式会社	様
(スキー部OB会)	様	環境衛生薬品株式会社	様
(バレーボール部OB会)	様	黄菊会	様
(バスケットボール部OB会)	様	(株) きんでん	様
(ボウリング部OB会)	様	(株) クラレ	様
(陸上競技部OB会)	様	小西医療器株式会社	様
(体育会顧問会)	様	小林製薬株式会社	様
大阪歯科大学日本拳法部	様	小山株式会社	様
大阪歯科大学ユースホステルクラブOB会	様	サン技研工業株式会社	様
大阪歯科大学・専門23回	様	サンスター株式会社	様

三精輸送機（株）	様	同窓会・熊本県支部	様
サンデンタル株式会社	様	同窓会・富山県支部	様
(株)ジーシー	様	同窓会・長崎県支部	様
(医・社)慈誠会	様	同窓会・福岡県支部	様
(医)歯適塾 緒方歯科	様	同窓会・宮崎県支部	様
(医・社)柴田医院	様	(医・社)東陽会 和田歯科医院	様
(株)浄美社	様	東西化学産業株式会社	様
(株)松風	様	(医・社)徳永歯科クリニック	様
昭和薬品化工株式会社	様	(株)トクヤマデンタル	様
(株)信和工務店	様	トランスコスモス株式会社	様
進和テック株式会社	様	(株)永末書店	様
住友信託銀行株式会社	様	ナンスイ工業株式会社	様
住友電設株式会社	様	(株)二紀出版	様
セレック株式会社	様	西日本電信電話株式会社	様
(株)センジョー	様	(株)西原衛生工業所	様
(医)泉慈会 泉歯科医院	様	(株)ニチイ学館	様
(株)洗心	様	(株)日経サービス	様
(有)造園土木 植清園	様	(株)ニッシン	様
大14回教授経験者の会	様	日新電設株式会社	様
高砂熱学工業株式会社	様	(株)日本シューター	様
高島建設株式会社	様	ネオ製薬工業株式会社	様
タカラベルmont株式会社	様	能美防災株式会社	様
(株)辻井書院	様	ノーベルバイオケアジャパン株式会社	様
(株)ツチモト工業	様	白水貿易株式会社	様
デンツプライ三金株式会社	様	(医・社)橋本会 橋本矯正歯科	様
同窓会・大分県支部	様	パナソニック電工エンジニアリング株式会社	様
同窓会・大阪府同窓会生野区支部	様	パナソニックデンタル株式会社	様
同窓会・大阪府同窓会泉北支部	様	(株)阪神技術研究所	様
同窓会・大阪府同窓会中央区南支部	様	(株)ビジネスサービス	様
同窓会・大阪府同窓会東成支部	様	(有)プラザフォーティーン	様
同窓会・大阪府同窓会福島区大歯会	様	保全サービス株式会社	様
同窓会・沖縄県支部	様	(医・社)松田歯科医院	様
同窓会・鹿児島県支部	様	三谷商事株式会社	様

(株)三井住友銀行 様  
 (株)三菱東京UFJ銀行 様  
 (株)美濃ラボ 様  
 (医)明貴会 様  
 メディア株式会社 様  
 モトナガ株式会社 様  
 (株)モリタ 様  
 (株)モリタ製作所 様  
 (株)山武 様  
 (株)ヨシダ 様  
 (株)ワイデイエム 様  
 和田精密歯研株式会社 様

足立 裕亮 様 足立 光顕 様  
 阿部 克生 様 阿部 公生 様  
 安保 晴夫 様 安保 光人 様  
 天野 仁一朗 様 天野 秀雄 様  
 天野 義和 様 雨宮 幸三 様  
 天羽 峻 様 新井 是宣 様  
 新井 正朗 様 荒川 文六 様  
 有田 憲司 様 有田 清三郎 様  
 有馬 幸宏 様 有山 金一郎 様  
 安東 晟 様 安東 克之 様  
 安東 順 様

○個人(ア)

相原 有理 様 青江 俊介 様  
 青木 茂樹 様 青木 昭一 様  
 青木 建雄 様 青山 敏彦 様  
 赤井 啓祐 様 赤井 康宰 様  
 赤石 孝博 様 赤尾 一成 様  
 赤垣 俊輔 様 明石 喬雄 様  
 赤司 範俊 様 赤根 賢治 様  
 赤羽 稔 様 上り口 晃成 様  
 秋田 家豊 様 秋山 淳司 様  
 秋山 広徳 様 秋山 雄平 様  
 朝井 功 様 浅井 計征 様  
 浅井 加雄 様 浅野 透 様  
 足利 照 様 芦澤 孝 様  
 芦田 克巳 様 芦田 欣一 様  
 阿曾 輝彦 様 麻生 眞 様  
 安宅 公男 様 足達 慶輔 様  
 安達 純子 様 安達 舜治 様  
 足立 隆信 様 安達 忠司 様  
 安達 正 様 安達 久代 様

○個人(イ)

井伊 かず代 様 飯田 拓二 様  
 飯田 武 様 飯田 肇 様  
 飯盛 光朗 様 家田 晋輔 様  
 井口 義敏 様 池 宏海 様  
 池尾 裕子 様 池尾 元三朗 様  
 池上 孝 様 池沢 周彦 様  
 池田 修造 様 池田 直也 様  
 池田 文一 様 池田 寿人 様  
 池田 英綱 様 池田 祐治 様  
 池田 能子 様 池田 良則 様  
 生駒 等 様 生駒 佳子 様  
 井阪 彰男 様 井阪 幹生 様  
 伊崎 克弥 様 五老海 輝一 様  
 石井 亨 様 石浦 和子 様  
 石川 哲夫 様 石川 春美 様  
 石川 美晴 様 石崎 好洋 様  
 石田 稜威夫 様 石田 尚 様  
 石津 裕章 様 石飛 国子 様  
 石橋 民朗 様 石橋 充朗 様  
 石原 健也 様 伊集院 淳一 様

泉谷 祐紀員	様	井関 功	様
井関 富雄	様	磯野 典正	様
磯遊 賢三	様	磯遊 孝幸	様
伊田 幸子	様	井田 直子	様
板垣 恵輔	様	板倉 紘一	様
市川 一平	様	市川 重敏	様
一瀬 啓造	様	伊地智 弘昌	様
市場 寛人	様	市橋 勇雄	様
市橋 和雄	様	市橋 悟	様
一宮 正義	様	逸崎 宏	様
井手 一夫	様	井出 博文	様
出射 靖生	様	糸井 健二	様
伊藤 公雄	様	伊藤 公一	様
伊藤 公美子	様	伊藤 繁	様
伊藤 多右衛門	様	伊東 嵩英	様
伊藤 敏明	様	伊藤 友彦	様
伊藤 雅夫	様	伊東 正記	様
伊藤 昌範	様	伊東 禎雄	様
伊藤 淑子	様	伊藤 玲子	様
井堂 孝純	様	糸田 英俊	様
糸山 昇	様	稲川 実	様
稲田 和彦	様	稲田 貴代美	様
稲田 保夫	様	稲田 義仁	様
稲場 敦	様	稲葉 修	様
居波 薫	様	居波 和美	様
稲村 宗男	様	犬伏 幸代	様
犬伏 義臣	様	井上 エツ子	様
井上 一男	様	井上 浩一	様
井上 泰治	様	井上 隆史	様
井上 崇	様	井上 武	様
井上 宏	様	井上 廣	様
井上 洋	様	井上 昌樹	様
井上 正弘	様	井上 亮一郎	様

猪木 一成	様	揖場 克次	様
射場 信行	様	今井 敦子	様
今井 一彦	様	今井 弘一	様
今井 直己	様	今井 徳子	様
今岡 久	様	今津 英文	様
今西 裕美	様	今西 正雄	様
今西 全宏	様	今村 文四郎	様
入江 隆子	様	岩井 廣茂	様
岩井 康智	様	巖 圭庫	様
岩城 正弘	様	岩佐 忠彦	様
岩佐 達郎	様	岩崎 荊路	様
岩崎 太三郎	様	岩崎 春美	様
岩崎 久直	様	岩崎 三治	様
岩田 明	様	岩田 淳次郎	様
岩田 有弘	様	岩田 益司	様
岩間 總一郎	様	岩見 洋	様
岩本 昭	様	岩本 一哉	様
岩本 助幸	様	岩本 浩	様
岩本 吉則	様	植木 俊雄	様

○個人(ウ)

上田 一郎	様	上田 五男	様
上田 栄治	様	上田 脩	様
植田 勉	様	上田 直克	様
上田 晴三	様	上田 春満	様
上田 雅俊	様	上田 雅史	様
上田 実果	様	植田 貢	様
上田 実	様	上田 實	様
上田 祐嗣	様	上田 良子	様
上中 清隆	様	植西 輝夫	様
上野 亜希子	様	上野 泰之	様
上羽 隆夫	様	上原 英士	様
上村 直也	様	上村 守	様

上山 桂子	様	上山 智子	様
魚津 公美	様	右近 文夫	様
内木 雄一	様	内田 準子	様
内田 実	様	内野 一男	様
内海 潔	様	内橋 賢二	様
内海 順夫	様	宇野 昭信	様
梅垣 輝生	様	梅崎 義明	様
梅崎 晋吾	様	梅谷 元一	様
梅村 智	様	梅本 俊夫	様
梅山 英樹	様	梅山 勇樹	様
宇和山 義雄	様		

○個人(工)

榎川 米三	様	江口 宗昭	様
江藤 隆徳	様	榎木 恵美子	様
江原 昌弘	様	江原 雄二	様
榎村 光仁	様	遠藤 直樹	様
遠藤 佳樹	様		

○個人(才)

王 宝禮	様	扇谷 泰子	様
扇谷 義郎	様	往西 良之	様
近江 俊夫	様	大井 治正	様
大石 建三	様	大石 高志	様
大上 登	様	大浦 清	様
大浦 寿哉	様	大浦 三恵	様
大川 勝	様	大口 直輝	様
大久保 直	様	大坂 尚史	様
大澤 一也	様	大塩 譲	様
大島 輝武	様	大島 輝哉	様
大島 浩	様	大島 道雄	様
太田 淳子	様	太田 一男	様
太田 恵一	様	太田 謙司	様

太田 利光	様	太田 義邦	様
大谷 雅昭	様	大谷 政博	様
大頭 孝三	様	大塚 壹章	様
大塚 清	様	大塚 健司	様
大塚 俊裕	様	大塚 禮三	様
大槻 榮人	様	大槻 レモン	様
大坪 稔	様	大西 愛	様
大西 明雄	様	大西 和典	様
大西 祐一	様	大西 洋二	様
大西 亮太郎	様	大野 榮	様
大野 忠彦	様	大野 登希子	様
大野 直人	様	大野 均	様
大野 正迪	様	大畑 裕彦	様
大間知 和郎	様	大松 高	様
大本 博	様	大森 正男	様
大矢 信夫	様	岡 邦恭	様
岡 卓爾	様	岡 正樹	様
小笠 貴司	様	岡崎 景	様
岡崎 圭助	様	岡崎 定司	様
岡田 武久	様	岡田 廣志	様
岡田 政久	様	岡田 眞廣	様
緒方 貴美博	様	小懸 泰道	様
岡西 昭典	様	岡西 裕文	様
岡野 和子	様	岡野 和代	様
岡野 博郎	様	岡林 眞	様
岡正 利一	様	岡正 彦一	様
岡村 敬次	様	岡村 俊昭	様
岡村 知福	様	岡村 久泰	様
岡村 英幸	様	岡村 大	様
岡本 圭史	様	岡本 新	様
岡本 卓士	様	岡本 学	様
岡本 吉司	様	岡本 義隆	様
岡本 吉晴	様	岡本 吉行	様

岡本 里恵子	様	岡山 廣樹	様
小川 清	様	小川 秀三	様
小川 文也	様	小川 雅央	様
沖田 和久	様	奥井 寛	様
奥田 純一	様	奥田 健	様
奥田 正計	様	奥田 昌義	様
小国 栄一	様	奥野 薫	様
奥野 計典	様	奥野 一吉	様
奥村 華都雄	様	奥村 豪	様
奥村 洋二	様	奥村 洋介	様
尾崎 貞親	様	尾崎 司	様
長富 寿人	様	長富 正博	様
小谷 泰生	様	尾辻 淳	様
音山 泰宏	様	小野 圭昭	様
小野 雅央	様	小野 勝	様
小野 洋治	様	尾上 徹	様
鉢田 豊	様	小野山 薫	様
小幡 登	様	尾松 みどり	様
尾本 儀一	様	恩田 信雄	様

櫻 則章	様	片淵 教夫	様
片山 仁	様	勝藤 大輔	様
加藤 イツ子	様	加藤 隆正	様
加藤 春生	様	加藤 賢	様
嘉藤 幹夫	様	加藤 裕彦	様
加藤 仁朗	様	門田 紀	様
門野 昌平	様	・野 博俊	様
金上 喬昭	様	金森 市造	様
金山 浩一	様	可兒 瑞夫	様
金子 智子	様	金子 勝	様
金子 充親	様	金田 一弘	様
金田 順三	様	金平 裕久美	様
兼松 宣武	様	兼松 義勇	様
金谷 恵大朗	様	加納 庸元	様
鎌田 愛子	様	鎌田 久史	様
釜田 博史	様	釜田 誠巳	様
紙谷 章夫	様	上村 敏雄	様
神谷 次郎	様	神谷 治雄	様
嘉村 征四郎	様	亀井 崇	様
亀田 邦彦	様	亀水 忠茂	様
亀水 忠宗	様	蒲生 祥子	様
蒲生 典子	様	蒲生 洵	様
鴨打 俊治	様	加山 勝敏	様
狩山 昌万	様	川井 健二郎	様
河合 繁一	様	川合 進二郎	様
川井 宏之	様	河合 正治	様
河合 泰則	様	河合 洋一	様
川勝 賢一	様	川上 隆彦	様
川嶋 信子	様	川島 滉	様
川添 堯彬	様	川添 優子	様
河津 研一	様	河野 晟	様
河野 節	様	川野 敏樹	様
河野 亘	様	川畑 衛	様

○個人(カ)

甲斐 寿男	様	加奥 奏哉	様
香川 正之	様	香川 芳江	様
垣内 英也	様	柿原 理奈	様
柿本 和俊	様	覚道 健治	様
笥 晋平	様	笥 哲郎	様
笠井 方尋	様	加地 公夫	様
梶 貢三子	様	梶野 大典	様
楫野 泰弘	様	柏木 宏介	様
柏木 勉	様	柏木 正好	様
梶原 公彦	様	数野 太一	様
片岡 源司	様	片岡 壽平	様
片岡 宏之	様	片岡 幹雄	様

河辺 博幸	様	川村 貞行	様
川村 広	様	河村 昌哲	様
川本 章代	様	川本 達雄	様
川本 博男	様	神田 昇平	様
岸保 文雄	様		

○個人(キ)

菊地 賢司	様	菊池 宣夫	様
菊池 優子	様	岸 直樹	様
岸田 章	様	岸本 直隆	様
岸本 博成	様	岸本 瑞穂	様
岸本 康宏	様	喜多 和夫	様
喜多 侯夫	様	北井 美喜夫	様
北岡 敏男	様	北折 忠之	様
北上 仁司	様	木谷 琢郎	様
北野 忠則	様	北野 廣昭	様
北村 卓也	様	北村 弘	様
北村 博司	様	北山 惠美子	様
北山 高之	様	北山 展弘	様
橘高 又八郎	様	橘高 光	様
鬼頭 俊雄	様	木下 善之介	様
木下 保	様	木下 浩志	様
木下 好雄	様	木原 卓司	様
木原 秀文	様	君野 宇三郎	様
木村 圭助	様	木村 公一	様
木村 慎一郎	様	木村 隆次	様
木村 敏也	様	喜村 成元	様
喜村 弘之	様	木村 正典	様
木村 正也	様	木村 雅行	様
木本 旭生	様	木本 極	様
清原 光次	様	桐田 忠昭	様
金城 勝一	様		

○個人(ク)

九鬼 佐和子	様	九鬼 裕之	様
久島 文彬	様	楠 正仁	様
楠本 哲次	様	工藤 貴也	様
国富 昌司	様	久野 幸紀	様
久保 一慶	様	久保 茂正	様
久保 大樹	様	窪 寛仁	様
久保 昌彦	様	窪 盛偉	様
久保木 利正	様	熊谷 秀雄	様
熊崎 眞義	様	熊崎 護	様
隈部 俊二	様	熊本 邦憲	様
熊本 憲之	様	久門田 俊治	様
久門田 美香	様	倉知 正和	様
倉橋 浩一	様	蔵前 勝彦	様
蔵前 尚子	様	栗岡 一人	様
栗岡 博良	様	栗田 賢一	様
栗林 洋一郎	様	栗原 朗	様
栗原 良浩	様	黒川 和俊	様
黒川 五一郎	様	黒川 森夫	様
黒川 拓治	様	黒川 勇次郎	様
黒木 誠一郎	様	黒瀬 信隆	様
黒田 収平	様	黒田 順子	様
黒松 裕喜秀	様	桑木 幹生	様
桑原 茂久	様		

○個人(コ)

小池 恭弘	様	小石 雅也	様
小石 淑子	様	小出 武	様
好田 春樹	様	合田 興世	様
合田 耕太郎	様	合田 征司	様
高田橋 美幸	様	河内 悌治郎	様
高津 匡雄	様	高津 兆雄	様
河野 多香子	様	河野 通久	様

神原 章	様	河見 忠雄	様
高麗 誠紀	様	越野 培名男	様
越野 学	様	小島 孝之	様
古城 望	様	古跡 養之真	様
小谷 順一郎	様	後藤 昭彦	様
後藤 基成	様	小早川 博昭	様
小林 三男	様	小林 岳志	様
小林 直克	様	小林 憲夫	様
小林 久夫	様	小林 久紀	様
小林 正和	様	小林 実	様
小渊 富美子	様	小正 裕	様
小宮山 寛芳	様	小室 智	様
米田 攝郎	様	米田 護	様
米谷 裕之	様	小柳 圭司	様
小山 和美	様	小山 公一	様
紺井 拡隆	様	金剛 寿美子	様
金剛 博	様	権田 悦通	様
金銅 真世	様	近藤 幹雄	様
近藤 豊	様		

○個人(サ)

斎賀 文雄	様	斎藤 顕	様
齋藤 俊司	様	齋藤 多紀	様
齊藤 尚宏	様	斎藤 真理子	様
坂 忠往	様	酒井 昭則	様
酒井 宏和	様	酒井 正道	様
左海 迪夫	様	榭 隆	様
坂口 喜史夫	様	坂口 卓彌	様
坂尻 光春	様	阪田 収	様
坂田 岳一	様	阪田 昌英	様
坂田 実緒子	様	坂田 吉子	様
坂谷 俊彦	様	坂野 貞恵	様
坂本 厚	様	坂本 逸治	様

坂本 邦基	様	坂本 順一	様
坂本 展子	様	坂本 伸人	様
坂本 宏充	様	坂本 章人	様
阪本 充	様	阪本 義典	様
佐久間 勲	様	佐久間 正敏	様
佐久間 泰司	様	櫻井 邦昭	様
櫻井 眞行	様	櫻井 守	様
碓 勇	様	佐古 好正	様
佐々木 敦	様	佐々木 勝英	様
佐々木 貞	様	佐々木 久幸	様
佐々木 英機	様	貞岡 道也	様
佐藤 和巳	様	佐藤 享一	様
佐藤 繁男	様	佐藤 毅	様
佐藤 武	様	佐藤 俊一	様
佐藤 文夫	様	佐藤 正樹	様
佐藤 学	様	讃岐 拓郎	様
讃岐 美津二	様	佐野 寿人	様
佐野 正雄	様	佐ノ木 幸夫	様
更谷 啓治	様	佐波 義明	様
佐波 義連	様	澤田 隆	様
澤田 護	様	澤田 和長	様
澤村 直明	様		

○個人(シ)

塩月 満重	様	重森 文弥	様
静間 紀佳	様	篠原 正氣	様
篠原 光子	様	芝本 博文	様
島岡 成和	様	島津 肇	様
島田 久	様	島田 雅仁	様
清水 栄一	様	清水 一彦	様
清水 謙	様	清水 孝治	様
清水 武宏	様	清水谷 公成	様
下地 常揮	様	下田 照子	様

下野 棟弘	様	下村 謙一朗	様
下村 錢三郎	様	下村 信明	様
下村 春海	様	下村 光延	様
庄 守	様	正司 二郎	様
正司 武	様	城使 万司	様
生野 史朗	様	城村 幸治	様
白尾 理英	様	白木 孝尚	様
白敷 毅	様	新開 清司	様
新谷 弘子	様	新谷 宗計	様
新門 正昭	様		

○個人(ス)

末瀬 一彦	様	末武 伸敏	様
末広 和彦	様	末廣 達也	様
菅 三喜夫	様	菅波 秀穂	様
杉浦 雅之	様	杉江 利光	様
杉岡 伸悟	様	杉田 憲司	様
杉立 馨	様	杉立 守由	様
杉中 功一	様	杉本 菜穂子	様
杉本 尚久	様	鈴木 一暢	様
鈴木 寛	様	鈴木 實	様
須永 紘子	様	砂田 直子	様
住井 鐵造	様	澄川 裕之	様
住谷 道夫	様	諏訪 文恵	様
諏訪 文彦	様	諏訪 喜恵	様

○個人(セ)

瀬浦 宏康	様	瀬尾 正	様
関根 一郎	様	関根 紀彦	様
関根 秀樹	様	関本 恵一	様
瀬戸 俊男	様	錢谷 豊文	様

○個人(ソ)

添田 栄造	様	曾我 恒夫	様
曾我 時雄	様	園田 真規	様
園本 美恵	様		

○個人(タ)

大郷 英里奈	様	大東 道治	様
高井 規安	様	高石 佳知	様
高尾 純子	様	高木 秀人	様
高木 博	様	高木 幹正	様
高島 洋	様	高須 聡	様
高瀬 恵介	様	高瀬 友久	様
高田 易典	様	高田 富三男	様
高野 淳人	様	高橋 啓	様
高橋 一也	様	高橋 清	様
高橋 士朗	様	高橋 紳八	様
高橋 達行	様	高橋 敏広	様
高橋 仁志	様	高橋 正生	様
高橋 康友	様	高橋 之衛	様
高浜 義秀	様	高山 泰幸	様
田川 宣文	様	滝内 聡	様
田口 千洋	様	田口 洋見	様
太口 裕弘	様	田口 洋一郎	様
武市 甫	様	竹内 敬博	様
竹内 宏行	様	竹澤 保政	様
武田 元一	様	武田 茂	様
武田 昭二	様	武田 治士	様
武田 一士	様	武田 守生	様
竹歳 真人	様	竹信 美保	様
竹松 利登	様	竹村 明道	様
竹村 瑞桜	様	竹村 忠義	様
竹山 旭	様	田治米 保夫	様
田隅 勝	様	多田 逸	様

多田 雅宣	様	立花 京子	様
龍田 早苗	様	龍田 光弘	様
辰巳 浩隆	様	伊達 洋彦	様
立松 憲親	様	田中 昭男	様
田中 栄士	様	田中 修	様
田中 佐和子	様	田中 繁和	様
田中 淳一	様	田中 順子	様
田中 資郎	様	田中 誠也	様
田中 忠幸	様	田中 翼	様
田中 照代	様	田中 敏夫	様
田中 俊正	様	田中 紀生	様
田中 広	様	田中 昌博	様
田中 潤美	様	田中 宗亮	様
田中 康隆	様	田中 靖人	様
田中 康正	様	田中 義人	様
田辺 辰彦	様	田邊 嘉穂	様
谷 幸治	様	谷 信男	様
谷 弘善	様	谷 睦	様
谷川 倫則	様	谷本 啓造	様
種谷 圭三	様	田幡 治	様
田幡 純	様	玉川 浩	様
玉置 敏夫	様	田丸 俊一	様
田村 彰規	様	田村 功	様
田村 伊知彦	様	田村 英喜	様
田村 淳一	様	田村 眞理子	様
田村 光雄	様	田村 基政	様
丹田 修	様	丹田 侏子	様
丹田 裕子	様	丹田 博己	様
丹田 正子	様		

○個人(チ)

近森 信人	様	千葉 亮	様
千葉 和朗	様		

○個人(ツ)

津尾 道雄	様	塚本 幸子	様
塚本 芳雄	様	柘植 昌保	様
辻 一起子	様	辻 功	様
辻 準之助	様	辻 高昭	様
辻 浩洋	様	辻 満千子	様
辻口 佳一郎	様	辻林 徹	様
津島 隆司	様	津島 康司	様
辻村 忠彦	様	辻本 研二	様
辻本 孝光	様	辻本 勝	様
辻本 守孝	様	津田 進	様
津谷 功	様	津谷 良	様
槌谷 正徳	様	土屋 健司	様
筒井 淳	様	恒松 克己	様
恒松 研二	様	角熊 順子	様
角熊 雅彦	様	角田 和子	様
椿井 琢光	様	椿井 洋二	様
椿本 九美夫	様	坪井 新一	様
坪口 満明	様	鶴身 敬三	様

○個人(テ)

寺岡 靖之	様	寺島 祐輔	様
寺島 龍一	様	寺田 明	様
寺田 賢太郎	様	寺西 義浩	様
寺村 幸雄	様		

○個人(ト)

土居 桓治	様	土井 孝夫	様
藤堂 眞	様	堂前 英資	様
堂前 尚親	様	頭山 高子	様
時岡 寛子	様	徳高 良造	様
徳富 敏信	様	徳永 佳子	様
土佐 淳一	様	戸田 伊紀	様

戸田 忠夫	様	戸堂 博之	様
外海 啓一	様	土肥 哲彦	様
飛田 千鶴子	様	飛田 昇	様
富澤 正直	様	富田 洋道	様
富田 基雄	様	富永 和也	様
豊岡 博夫	様	豊田 紘一	様
豊田 俊	様	豊田 浩行	様
豊福 英市	様	鳥井 克典	様

○個人(十)

内藤 雅夫	様	内藤 喜雄	様
直野 良信	様	直林 隆	様
仲 秀俱	様	中井 孝佳	様
中井 宏之	様	中井 円	様
長井 圭作	様	永井 利明	様
永石 真幸	様	中尾 辰義	様
中尾 昌彦	様	中岡 秀晃	様
長岡 貞彦	様	中川 隆善	様
中川 智英子	様	中川 徹	様
中川 寿三	様	仲川 憲幸	様
中川 宏	様	中川 学	様
中後 芙佐子	様	長澤 健一	様
中嶋 國博	様	中島 尚壬	様
中嶋 正博	様	中島 将元	様
中嶋 悠子	様	中島 有佳子	様
長砂 忠男	様	仲宗根 幸男	様
中田 仁成	様	中田 博之	様
永田 眞一	様	永田 雄己	様
中谷 譲二	様	中谷 祥二郎	様
中谷 勝	様	中谷 祐子	様
中塚 昌伸	様	中塚 美智子	様
中務 澄仁	様	中辻 薫	様
中辻 ときみ	様	中西 功	様

中西 淳一	様	中西 隆也	様
仲西 健樹	様	仲西 健豊	様
中西 宣	様	中西 久	様
中西 久義	様	中西 英晶	様
中西 正泰	様	中西 稔	様
中西 洋介	様	中野 健一郎	様
中野 崇	様	中野 信雄	様
長野 健司	様	長野 豊	様
中橋 千加子	様	中原 揚夫	様
中原 一彰	様	中原 しのぶ	様
長久 巧一	様	中道 哲	様
中道 宏	様	永峰 道博	様
中村 彰彦	様	中村 茂幸	様
中村 祥子	様	中村 伸也	様
中村 清輝	様	中村 節子	様
中村 孝子	様	中村 毅	様
中村 司	様	中村 朝子	様
中村 誠之	様	中村 久枝	様
中村 廣志	様	中村 弘之	様
中村 正明	様	中村 稔	様
中室 嘉康	様	中本 清嗣	様
中矢 健二	様	中山 元嗣	様
長山 平太郎	様	名倉 重良	様
名定 通	様	那須 馨	様
成田 雅彦	様	成田 裕	様
成瀬 悟	様	難波 荘祐	様
難波 弘志	様		様

○個人(二)

仁井内 徹夫	様	二階 宏昌	様
西 卓男	様	西内 勉	様
西海 啓之	様	西浦 亜紀	様
西浦 貞参	様	西尾 篤行	様

西岡 忠文	様	西岡 偉克	様
西川 和章	様	西川 哲成	様
西川 憲正	様	西川 泰央	様
西崎 静夫	様	西崎 宏	様
西嶋 克巳	様	西嶋 耕治	様
西田 清治	様	西田 拓史	様
西田 眞男	様	西堤 京子	様
西出 修	様	西出 元	様
西野 武四	様	西原 義昭	様
西松 元五	様	西村 久美子	様
西村 恵司	様	西村 眞哉	様
西村 敏治	様	西村 暢宏	様
西村 正之	様	西村 満夫	様
西村 謙	様	西村 洋子	様
西本 親弘	様	西山 亮治	様
新田 賢	様	二宮 浩治	様
二宮 隆	様	仁保 光昭	様
丹羽 金一郎	様	丹羽 敏勝	様

○個人(又)

額田 晃作	様	沼田 誠一	様
-------	---	-------	---

○個人(ネ)

根住 正博	様
-------	---

○個人(ノ)

野上 敦史	様	野上 清豪	様
野上 福秀	様	野上 松秀	様
野口 勝子	様	野口 孝純	様
野口 勝弘	様	野口 洋司	様
野阪 嵩	様	野阪 幸男	様
野崎 中成	様	野瀬 博之	様
野田 泉	様	野田 和伸	様

野田 知宣	様	野田 眞	様
野田 美和子	様	饒波 正太郎	様
農端 健輔	様	農端 俊博	様
野間 隆彰	様	野間 隆文	様
野村 昭人	様	野村 寿郎	様
野村 俊勝	様	野村 靖夫	様
野呂 吉孝	様		

○個人(ハ)

蠅庭 秀也	様	橋川 司	様
橋本 和年	様	橋本 光示	様
橋本 世津子	様	橋本 多加	様
橋本 武	様	橋本 猛伸	様
橋本 成人	様	橋本 弘一	様
橋本 和典	様	橋本 良知	様
橋本 芳紀	様	橋本 典也	様
長谷川 一弘	様	長谷川 清治	様
長谷川 信也	様	長谷川 博	様
長谷川 裕康	様	長谷川 泰彦	様
長谷川 佳央	様	長谷山 則夫	様
羽田 恭彦	様	羽田 実	様
畑崎 篤	様	畑崎 貴彦	様
畑下 芳史	様	畑中 昭男	様
幡中 大吉	様	幡中 寿之	様
服部 素直	様	花岡 靖浩	様
花谷 正明	様	馬場 淳	様
馬場 俊輔	様	馬場 忠彦	様
羽生 哲也	様	濱口 陸郎	様
濱田 國義	様	濱田 修二	様
早川 昌昭	様	林 昭栄	様
林 景一	様	林 光一	様
林 秀一	様	林 秀茂	様
林 秀彦	様	林 弘子	様

林 宏行	様	林 正純	様
林 義清	様	原 公明	様
原 久史	様	原 和子	様
原 美津恵	様	原口 武久	様
原田 武彦	様	伴 宏樹	様

○個人(七)

稗田 彩人	様	東 真一郎	様
東 宗秀	様	東 義景	様
東浦 宏守	様	東野 隆	様
光 司郎	様	疋田 陽造	様
疋田 芳寛	様	樋口 恭子	様
樋口 淳一	様	樋口 健	様
肥後 文章	様	久富 明宏	様
人見 クスクマ	様	人見 権次郎	様
日野 克彦	様	日野 祐之	様
日野 哲雄	様	日野 満	様
平川 陽基	様	平木 光昭	様
平田 淳	様	平塚 靖規	様
平林 茂之	様	平林 正樹	様
廣畑 顕一	様	深尾 章	様

○個人(フ)

深野 秀明	様	福井 和枝	様
福井 勝男	様	福井 克仁	様
福井 敬和	様	福岡 澄郎	様
福澤 美智子	様	福島 重紀	様
福島 卓司	様	福島 松蔵	様
福島 善彦	様	福田 徹夫	様
福田 哲巳	様	福田 守	様
福田 守利	様	福辻 清	様
福富 健介	様	福永 健一	様
福成 文隆	様	福原 良治	様

福本 穂高	様	福本 宣男	様
福家 秀一	様	福家 堯	様
藤井 諭	様	藤井 章司	様
藤井 隆晶	様	藤井 孝政	様
藤井 辰彦	様	藤井 俊彦	様
藤井 弘之	様	藤井 辨次	様
藤井 龍平	様	藤岡 俊二	様
藤岡 隆夫	様	藤木 郁子	様
藤田 暁	様	藤田 智	様
藤田 淳一	様	藤高 洋一	様
藤野 明	様	藤野 英子	様
藤野 智子	様	藤林 由利安	様
藤本 源吾	様	藤本 宣文	様
藤本 平蔵	様	藤本 泰雄	様
藤本 吉孝	様	藤本 嘉治	様
藤原 一成	様	藤原 成樹	様
藤原 眞一	様	藤原 進	様
舟津 保男	様	船橋 洋一	様
古市 憲史	様	古市 史子	様
古川 順康	様	古川 壽男	様
古川 哲夫	様	古原 英男	様
古森 喬	様	古森 賢	様
古森 輝彦	様		

○個人(ハ)

別當 敏	様	逸見 利也	様
逸見 智康	様	逸見 浩史	様
逸見 美登里	様		

○個人(ホ)

方 一如	様	法貴 学	様
北條 博一	様	細井 敦子	様
細川 由美子	様	細山 勝道	様

細山 陽子	様	堀田 肇	様
堀田 雄一	様	堀 啓子	様
堀 千菜美	様	堀 宏之	様
堀 町江	様	堀井 宏雄	様
堀内 喜美子	様	堀内 浩司	様
堀内 啓成	様	堀内 昌代	様
堀内 道郎	様	堀切 卓	様
堀口 外茂雄	様	堀口 靖史	様
本荘 才樹	様	本城 範典	様
本多 一郎	様	本多 正明	様

○個人(マ)

前川 英太郎	様	前岨 亜優子	様
前田 孝一郎	様	前田 耿二	様
前田 眞治	様	前田 哲二	様
前田 美貴子	様	前田 光代	様
前田 衛大	様	前田 幸男	様
前田 羊一	様	前野 隆	様
牧浦 斉	様	禎田 一輝	様
牧田 佳真	様	牧谷 弘幸	様
牧野 健	様	禎野 明弘	様
牧野 弘嗣	様	牧平 幹生	様
真喜屋 恒代	様	益井 重文	様
榎尾 隆一	様	増田 朗	様
舛田 耕二	様	増田 次郎	様
増田 信一	様	増田 亨	様
増田 博文	様	増田 裕弘	様
榎谷 多紀子	様	益野 一哉	様
松井 健二	様	松井 孝文	様
松井 孝道	様	松井 長久	様
松井 康彦	様	松浦 しのぶ	様
松浦 剛	様	松尾 光至	様
松尾 孝人	様	松川 信夫	様

松島 伸一	様	松島 正	様
松島 悌二	様	松島 諒	様
松田 克敏	様	松田 毅	様
松田 博文	様	松田 弘	様
松田 佳子	様	松谷 哲博	様
松永 悦治	様	松原 弘明	様
松原 正治	様	松前 静	様
松三 洋夫	様	松村 隆司	様
松本 英喆	様	松本 和子	様
松本 圭右	様	松本 晃一	様
松本 修二	様	松本 島春	様
松本 利一	様	松本 尚之	様
松本 修明	様	松本 仁	様
松本 真理子	様	松本 百加	様
松山 博史	様	松山 博迪	様
真鍋 憲夫	様	丸橋 琇一	様
丸山 利彦	様		

○個人(ミ)

三海 正人	様	三上 晴彦	様
三上 正彦	様	民上 良将	様
三ヶ山 敏胤	様	三木 康平	様
水井 雅則	様	水川 健司	様
水野 順	様	水野 文行	様
水野 雅則	様	水野 良行	様
溝上 修平	様	三谷 浄	様
三谷 早苗	様	三谷 卓	様
三谷 徹	様	三谷 博	様
三谷 春保	様	三井 敏子	様
光武 裕二	様	光安 良重	様
三戸 應則	様	三戸岡 直樹	様
南 利哉	様	峰 正博	様
峯田 清隆	様	峰田 深佐子	様

箕浦 沙恵	様	箕浦 陽一	様
宮 博文	様	宮井 亨	様
宮内 雄平	様	宮尾 憲明	様
三宅 智加	様	三宅 晴記	様
宮崎 哲	様	宮崎 晴吾	様
宮崎 均	様	宮地 芳之	様
宮田 武英	様	宮野 哲	様
宮前 雅見	様	宮本 啓二	様
宮本 哲博	様	宮本 弘義	様
宮本 美千子	様	向井 和之	様

森岡 慧	様	森岡 俊夫	様
森岡 信明	様	森川 栄司	様
森川 充康	様	森川 良一	様
森口 浩充	様	護邦 英俊	様
守下 綾香	様	森島 秀一	様
森田 章介	様	守田 忠正	様
森田 英機	様	森田 恭生	様
森谷 泰之	様	森信 英雄	様
森鼻 健史	様	森本 清治	様
森山 昌彦	様	諸井 英世	様
門司 研一	様		

○個人(ム)

向仲 正吾	様	椋代 龍彦	様
椋 良昭	様	向山 嘉幸	様
宗金 龍二	様	村井 紳	様
村上 晃	様	村上 斎	様
村上 英夫	様	村上 昌央	様
村上 昌宏	様	村上 勝	様
村上 義和	様	村上 よし子	様
村川 昇	様	連 利隆	様
村田 省三	様	村田 安充	様
村山 寛治	様	室井 誠	様
室井 悠里	様		

○個人(ヤ)

矢尾 和彦	様	八尾 義春	様
矢追 秀純	様	矢追 雅浩	様
矢追 充啓	様	家頭 照彦	様
八木 茂夫	様	薬師寺 毅	様
安井 照治	様	安井 宏之	様
安澤 欣孝	様	安田 俊治	様
安田 昭二	様	保田 宗茂	様
矢谷 憲一郎	様	矢谷 慎一郎	様
矢谷 正公	様	梁川 国昭	様
柳田 昌宏	様	矢野 一郎	様
矢部 公典	様	山内 健夫	様
山尾 雅朗	様	山岡 恵美	様
山岡 忍	様	山岡 義明	様
山形 栄二	様	山上 哲賢	様
山上 剛史	様	山岸 聡史	様
山岸 敏治	様	山口 邦夫	様
山口 邦雄	様	山口 省三	様
山口 義和	様	山口 芳輝	様
山崎 一郎	様	山崎 信義	様
山崎 長巳	様	山下 敦	様

○個人(モ)

元林 大	様	百田 義弘	様
森 厚	様	森 悦郎	様
森 勝利	様	森 敬子	様
森 享三郎	様	森 祐俊	様
森 高廣	様	森 千香代	様
森 昌彦	様	森 悠衣	様
森 由美	様	森 芳雄	様
森井 徹雄	様	守内 真澄	様

ODU NEWS No.165

山下 皓三	様	山科 敦	様
山科 透	様	山科 文子	様
山田 香	様	山田 耕治	様
山田 重樹	様	山田 雄	様
山田 剛	様	山田 直樹	様
山田 尋士	様	山田 正久	様
山田 実	様	山田 裕	様
山田 隆一	様	大和 秀明	様
山野 展秀	様	山羽 義信	様
山村 辰雄	様	山本 晃也	様
山本 佳津	様	山本 和子	様
山本 一世	様	山本 憲二	様
山本 修平	様	山本 次郎	様
山本 卓世	様	山本 敏弘	様
山本 範子	様	山本 秀利	様
山本 昌宏	様	山本 道男	様
山本 道直	様	山本 嘉治	様
山本 良介	様	山脇 頌子	様
山脇 裕	様		

○個人(ユ)

湯浅 章	様	結城 剛己	様
湯川 昭吾	様	弓倉 威己	様
弓場 敏克	様		

○個人(ヨ)

横田 圭子	様	横田 憲男	様
横引 昌樹	様	横山 晶彦	様
横山 和子	様	横山 邦生	様
横山 正憲	様	吉井 啓	様
吉岡 知恵子	様	吉岡 宥善	様
吉川 一志	様	吉川 伸	様
吉川 直子	様	吉川 美弘	様

吉崎 正良	様	吉田 篤	様
吉田 欣也	様	吉田 興二	様
吉田 周一	様	吉田 司郎	様
吉田 誠孝	様	吉田 隆一	様
吉田 統致	様	吉田 敏昭	様
吉田 陽彦	様	吉田 秀隆	様
吉田 博昭	様	吉田 匡宏	様
吉田 光男	様	吉田 裕	様
吉田 洋	様	吉田 良子	様
吉野 次信	様	吉福 亜紀	様
吉光 博史	様	吉村 里美	様
吉村 敏行	様	吉本 一馬	様
四井 資隆	様	四元 尚子	様
米田 喜美	様	米田 尚弘	様
米田 哲也	様	米田 輝男	様
米田 智一	様	米田 正器	様
米田 征司	様	米田 節	様

○個人(ワ)

涌本 昇	様	和田 明人	様
和田 喜久雄	様	和田 貴美代	様
和田 健	様	渡内 信嘉	様
綿谷 和也	様	渡邊 充春	様
渡部 素次	様	渡辺 良隆	様
渡辺 林三	様	和手 甚京	様
和唐 功	様	和唐 雅博	様

\* 匿名希望者は記載しておりません。

\* ご芳名は、一つに限らせていただきました。

人 事

昇 任

歯科麻酔学講座	准教授 杉岡 伸悟
有歯補綴咬合学講座	准教授 柏木 宏介
	以上 H. 24. 3. 31付

職員採用

附属病院	看護師 平松 育子
	H. 24. 2. 1付

昇 進

法人事務局	事務局長 長谷山則夫
	H. 24. 1. 1付

兼 務

教務学生課	課長 松村 誠一
	H. 24. 3. 26付

兼務解除

創立100周年推進室	事務部長 前野 隆
	H. 24. 3. 31付

死亡退職者

専門学校事務室	事務長 東野 隆
	H. 24. 2. 20付

定年退職者

歯科衛生士専門学校	教務主任 田中 照代
法人事務局	事務局長 長谷山則夫
大学院課	課長 池田 良則
施設課	課長 大上 登
医事課	主任 福西 環
総務課総務担当	事務職員 仲宗根幸男
附属病院	歯科技工士長 加地 公夫
附属病院	歯科技工士主任 西村 謙
	以上 H. 24. 3. 31付

依願退職者

附属病院	看護師 松本 恵美
	H. 24. 1. 31付
歯科麻酔学講座	准教授 杉岡 伸悟
有歯補綴咬合学講座	准教授 柏木 宏介
歯科保存学講座	助教 初岡 昌憲
歯科矯正学講座	助教 蓮舎 寛樹
口腔外科学第一講座	助教 岩井 理恵
口腔外科学第二講座	助教 森下 寛史
病院庶務課卒後研修担当	課長 赤羽 稔

附属病院	看護師 森本 成子
附属病院	歯科衛生士 田中 里恵
附属病院	歯科衛生士 奥野 宏美
	以上 H. 24. 3. 31付

任期満了退職者

口腔衛生学講座	助教 神 光一郎
欠損歯列補綴咬合学講座	助教 奥田 恵司
口腔インプラント科	病院助教 金平裕久美
	以上 H. 24. 3. 31付

あとがき

—余談—

箕面公園に野口英世の銅像がある。建てられたのは半世紀以上前の昭和30年であるが、そのいきさつはさらに40年前に遡る。

大正4年(1915)10月、老いた母堂の懇願もあって15年ぶりにアメリカから帰国した野口博士は、母堂や恩師を伴って関西方面に慰労を兼ねた講演旅行に出た。10月12日には、移転したばかりの本学大国町の校舎で講演を行っているが、その2日前の10日、関係者により箕面の料亭「琴の家」で内輪の昼食会が設けられていた。その時、当時ノーベル賞候補にもなった野口博士が母シカさんを気遣う姿を見て感銘を受けたのが、料亭の女将の妹の南川光枝さんであった。その3年後にシカさんは亡くなり、野口博士も昭和3年にアフリカで亡くなっている。

しかし、南川さんの野口博士への尊敬の念は消えることはなく戦後、歯科医の戸祭正男さんとの出会いにより、いよいよ野口博士の記念事業を進める決意をする。戸祭さんは、大阪歯科医学校を卒業して本学での野口博士の講演を聴いており、また緒方六治校長が留学時代ニューヨークで博士と同じアパートに住んでいたため、緒方校長から博士の素顔について詳しく聞いていた。戸祭さんは、たまたま患者として訪れた南川さんに、共に尊敬する野口博士の業績や人柄について話し、南川さんから相談を受けて銅像建立を提案し、自らもその実現のために奔走した。

こうして、南川さんの思いは40年後に実現した。

